

**【茨城県牛久市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	茨城県牛久市
担当課名	スポーツ推進課
電話番号	029-873-2111

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	84,015人	部活動数	60部活
公立中学校数	6校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
公立中学校生徒数	2,291人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

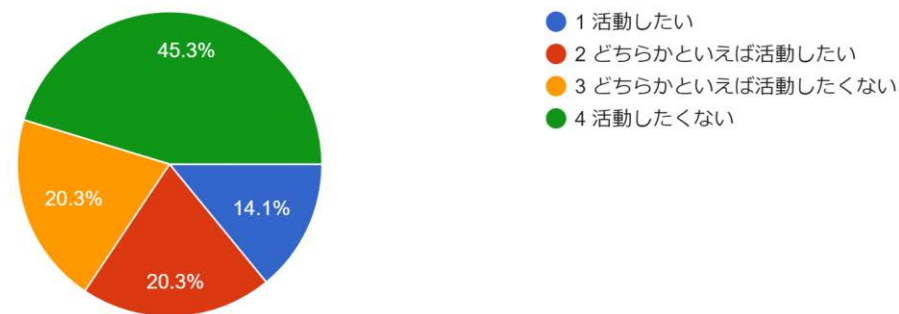
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

今年度の実証事業では、週1回の地域での活動がどのくらい必要があるかを調査することがポイントであった。実施した種目において、野球及びサッカーは年間を通して10～20人前後の参加者数となった。一方、バレーボールの参加者数は、1桁が続き、0人であることさえあった。この原因として実証事業を実施した日に参加者ターゲットの多くが参加しているクラブの練習や学校での部活動が実施されていたことがあげられる。このことから、学校や地域団体との調整は課題であるといえる。

また、実証事業では、補助金があることで活動が成り立っているものが多い。しかし、補助金は永続的にあるものではないことから、1つ1つのクラブが自走するための方略を調査することは今後の課題であるといえよう。

さらに、教員に実施したアンケート結果から、70%以上の教員が休日の部活動に参加したくないと回答している。一方で一部の教員から引き続き部活動に携わりたいとの声があることから、希望する教員は地域の人材としてクラブでの指導に携わってもらえる体制を整備する必要があるといえる。

今後、「休日」の部活動が地域移行された場合に、地域指導者として活動を行いたいですか？
64件の回答

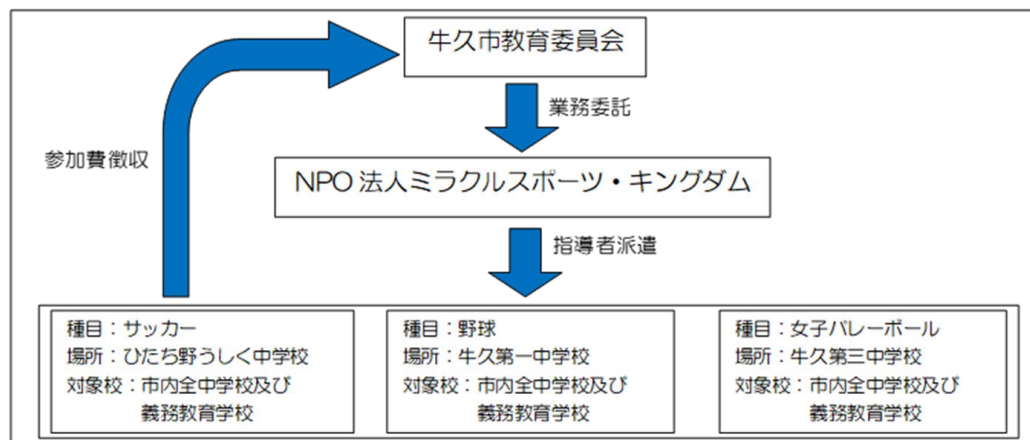


牛久市実施アンケート
R5.11月実施

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（スポーツ推進課）**
 - NPO法人ミラクルスポーツ・キングダムとの業務委託契約
 - 参加者や参加費の管理
 - 学校との調整
- **首長部局（財政課）**
 - 予算措置等事務

年間の事業スケジュール

月	実施内容
6月	実証事業開始・月3回活動実施
7月	月3回活動実施
8月	
9月	
10月	
11月	月3回活動実施、生徒・保護者・教員アンケート実施
12月	月3回活動実施
1月	
2月	

R5年6月から実証事業の活動を開始した。月に3回の活動を行い、活動日はすべての種目が日曜日であった。1回の活動時間は片付け等を含めて3時間とした。

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

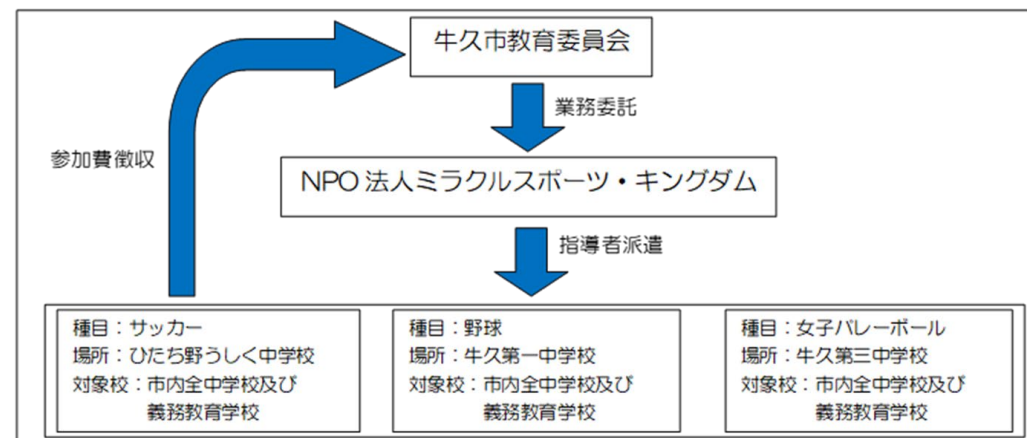
拠点校数	3 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	サッカー、野球、女子バレーボール
------	-----	-----------------	------------------

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	サッカー：ひたち野うしく中学校 野球：牛久第一中学校 女子バレーボール：牛久第三中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	15部活
地域クラブ活動で実施した種目	女子バレー、サッカー、野球
運営主体名	NPO法人ミラクルスポーツキングダム
運営類型	民間スポーツ事業者運営型
1 か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月3回程度 野球：月3回程度 女子バレー、月3回程度
指導者の主な属性	スポーツ協会、スポーツ少年団、民間スタッフ
活動場所	市内中学校グラウンド及び体育館
主な移動手段	保護者の送迎や自転車
1 人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円 野球：12,000円 女子バレー：12,000円
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の 成果

地域の指導者を年間を通して派遣することができたため、人材の確保はできるという可能性が示された。

特に 工夫した 事項

教職員にアンケートを実施し、休日の活動に対して、どれだけの人数が指導者として参加したいかを調査した。

今後の 課題と 対応方針

持続可能な運営という観点では課題が見られた。現在は、県からの補助金を用いて運営を成り立たせている部分が多い。しかし、補助金を頼りにしては、持続的な運営とは言えないため、次年度は、自らの資金を用いて持続的に運営するための方略を明らかにすることが必要であると考えられる。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

指導者に対して、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。

取組の 成果

実施できなかった。

特に 工夫した 事項

工夫なし。

今後の 課題と 対応方針

地域クラブが中体連主催の大会に出場する場合、競技によっては指導者の資格が必要な場合があるため、今後資格取得の催促等を定期的に行う必要があると考える。また、各競技ごとに必要な資格が大きく異なるため、整理が必要であるとする。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

指導者の派遣、民間施設の利用、監修教材の提供・講師派遣などについて連携する。

取組の成果

指導者の派遣については、運営主体であるNPO法人ミラクルスポーツ・キングダムと連携することで、スポーツに長年関わってきた経験があり、育成年代の指導に対しての知見と意欲を持っている指導者を派遣できるよう取り組んだ。

特に工夫した事項

運営主体であるNPO法人ミラクルスポーツ・キングダムと連携及び指導者からの紹介等を通じて、指導者確保に努めた。

今後の課題と対応方針

生徒が経験できる活動を1つでも増やすことを考えると、今後多くの指導者の確保や活動場所である施設の確保が必要となる。特に指導者は、人数と指導者の質の両方が重要であるため、人材バンクの活用や部活動指導員など様々な制度を利用することや、大学等と連携し講習会を行う必要があると考えられる。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

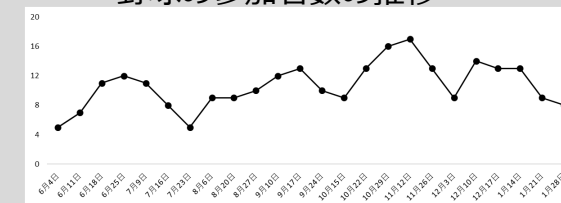
取組事項

生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツに親しむ機会の確保に取り組む。

取組の成果

指導者には、生徒がどのような形の活動を望んでいるかを考えて計画を立ててもらうことで、生徒の求める活動が実現できるように実施した。グラフに示すように、6月から実施したモデル事業の参加者数は10月ごろに増加しており、生徒の希望する活動を実施していることから、参加者数が増加した可能性が考えられる。

野球の参加者数の推移



特に工夫した事項

生徒や保護者の声を聞き、それを運営主体であるNPO法人ミラクルスポーツ・キングダムや指導者と共有するよう努めた。

今後の課題と対応方針

R5年11月に実施したアンケートから、学校の部活動にはない種目をやりたいという希望を受けた。次年度は、そのような種目についても参加したい生徒が参加できるような体制を整えていく方針である。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

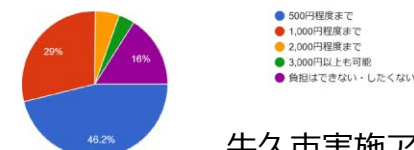
取組事項

会費の適切な設定・徴収方法の検討や、保護者負担経費の調査・検討を行う。

取組の成果

参加者からの会費は市内保護者を対象に実施したアンケートの結果を概観すると、保護者の負担という観点では適当であると考えられる。

仮に、週一回（土日のどちらか1日）地域で文化・...ら、1回あたりいくらくらいを負担できますか？
169 件の回答



牛久市実施アンケート
R511月実施

特に工夫した事項

アンケートを実施し、ニーズ調査をした。

今後の課題と対応方針

今後、地域クラブが主体となって受け皿となり、活動を持続的に行っていくためには、受益者負担という形で保護者から徴収する会費を増額することが必要であると考えられる。少しでも多くの生徒が参加できる環境と、地域クラブが持続的に活動できるあり方を検討する必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

学校の施設・設備・備品等を使用する際の利用ルールを策定する。

取組の成果

実証事業は主に日曜日の活動であったため、学校部活動の他種目と活動場所が重複する可能性があった。しかし、学校長と事前協議を行いすべての実証事業該当種目で学校を使用することができたことは本取り組みの成果であるといえる。

特に工夫した事項

学校と密に連絡を取り、場所の確保に努めた。

今後の課題と対応方針

学校部活動の受け皿となる地域クラブの活動が増えると、学校施設を使用するうえで、地域に移行していない学校部活動と重複する部分が増える可能性がある。休日の部活動を地域に移行するという目的を達成するためには、土日の学校部活動の取り組みを廃止することが必要である。そのための受け皿の確保や教員・保護者の理解を得る取り組みが必要となる。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

令和5年度 運動部活動の地域移行モデル事業 参加者募集

令和5年度から土、日における運動部活動が地域へ順次移行されることに伴い、

牛久市ではモデル事業を開催します。

種目:	 【サッカー】	 【野球】	 【女子バレーボール】
場所:	ひたち野うしく中学校グラウンド (雨天時:ひたち野うしく中学校 体育館前広場)	牛久第一中学校グラウンド (雨天時:牛久第一中学校70mナド)	牛久第三中学校体育館
対象者:	市内全中学校 義務教育学校の サッカー部員	市内全中学校 義務教育学校の 野球部員	市内全中学校 義務教育学校の 女子バレーボール部員
日時:	6月11日(日)13:00-16:00 18日(日)13:00-16:00 25日(日)13:00-16:00 ※毎月2~3回程度実施予定です。 ※7月の日程については、問い合わせフォーム内またはメールでお知らせします。	6月4日(日)13:00-16:00 18日(日)13:00-16:00 25日(日)13:00-16:00 ※7月以降は土曜日開催予定	6月4日(日)13:30-16:30 11日(日)13:30-16:30 25日(日)13:30-16:30
参加費:	月額1,000円(月2~3回程度を予定) ※参加費は毎月、初回参加時に徴収いたします。		
保険代:	無料 ※学校での部活動とは別の活動となります。今回のモデル事業につきましては、主催者側にて保険へ加入いたします。		

※新型コロナウイルス感染症拡大の際は、中止になる場合があります。
※強制参加ではありません。希望者のみの参加となります。

問い合わせ: 牛久市教育委員会スポーツ推進課
TEL 029-873-2111 (内線 3351)

【学校配布用参加者募集チラシ】

シリーズ 教職員の 働き方改革

すべての取り組みは、
子どものために

教育企画課 企画3091

部活動の地域移行に向けて 1

今日、社会・経済の変化により、教育界にも様々な課題が顕在化・多様化し、学校や教員だけでは解決することができない課題が数多くあります。とりわけ、少子化が進捗する中、生徒数の減少に伴い、単独で練習や大会出場のできる運動部活動が地域に存在することや、部活動のない教員の部活動指導に係る負担、教員の働き方改革の阻害などが、従前と異なる課題体制では部活動の維持が困難になってきており、学校や地域によっては存続の危機にあります。

部活動の地域移行をサマーズ

部活動の地域移行とは、学校で実施していた部活動を、地域のスポーツクラブや市民体育館等に委託して実施することです。これにより、学校の教員は、部活動の指導から解放され、授業や生徒指導などに専念できるようになります。また、地域のスポーツクラブや市民体育館等に委託することで、部活動の指導に専門的な知識や経験を持つ指導員が派遣され、生徒の技術向上や安全確保が期待できます。

学校部活動と地域部活動の違い

区分	学校部活動	地域部活動
実施主体	学校	民間のスポーツクラブ、市民体育館等
対象	同校の生徒	地域の児童・生徒
指導者	教員、部活動指導員	地域のスポーツ指導者、保護者、民間指導員、ボランティア等(指導者の許可を得た上で指導を実施する教員)
活動日	平日、休日	休日(平日も可)
活動場所	学校	学校、地域の施設、クラブの施設等
活動時間	適宜方針一平日2時間程度、休日3時間程度	適宜方針に準拠して活動することが適切
参加費	部活動費、保護者負担等	参加費あり、他アスリートで減額
保険	日本スポーツ連盟センター(学校で加入済み)	適宜主体で、保険に加入
責任	学校	適宜主体
参加方法	学校単位で参加	主権者が学校単位以外も参加を可とした場合
指導者の報酬等	休日部活動は特別業務手当	適宜主体が報酬額を決定
指導者の資格	教員、部活動指導員(指導員資格取得に準ずる)	適宜主体が決定
課題等	・生徒の多様なニーズに対応 ・少子化のため、適宜体制の維持が困難 ・部活動費の負担 ・指導員が不足している ・指導員が不足している	・適宜主体の確保 ・地域人材の確保 ・平日と休日の能力体制 ・費用負担の在り方 ・大会参加の在り方 ・雨天、悪天、雨具の持ち運び ・指導員が不足している

※地域移行の実施には、学校の部活動と地域部活動との連携が不可欠であり、地域移行のスムーズな実施のためには、学校と地域の連携が不可欠です。

※地域移行の実施には、学校の部活動と地域部活動との連携が不可欠であり、地域移行のスムーズな実施のためには、学校と地域の連携が不可欠です。

※地域移行の実施には、学校の部活動と地域部活動との連携が不可欠であり、地域移行のスムーズな実施のためには、学校と地域の連携が不可欠です。

※地域移行の実施には、学校の部活動と地域部活動との連携が不可欠であり、地域移行のスムーズな実施のためには、学校と地域の連携が不可欠です。

【広報うしく掲載文】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【モデル事業野球】



【モデル事業野球】



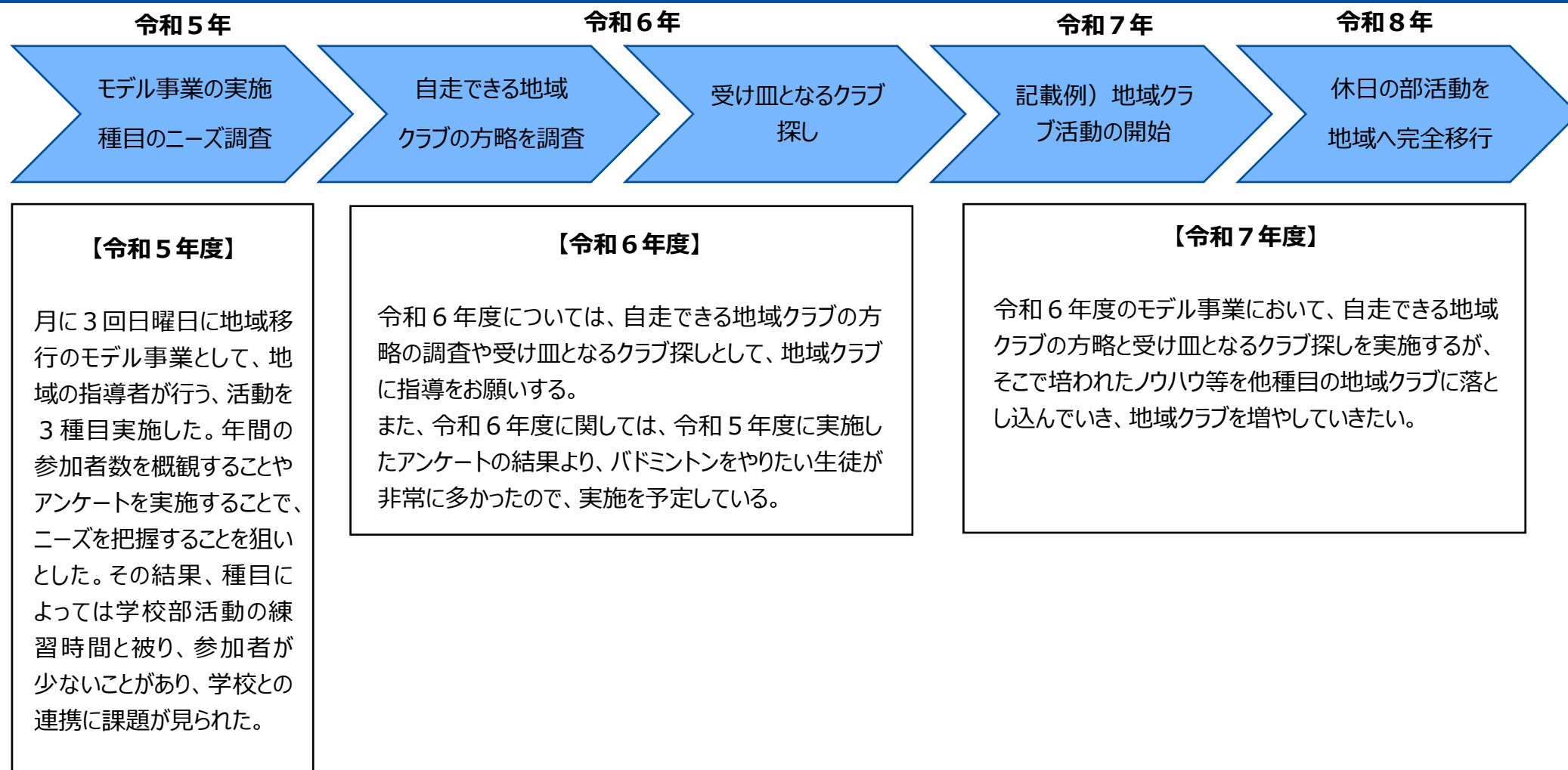
【モデル事業野球】



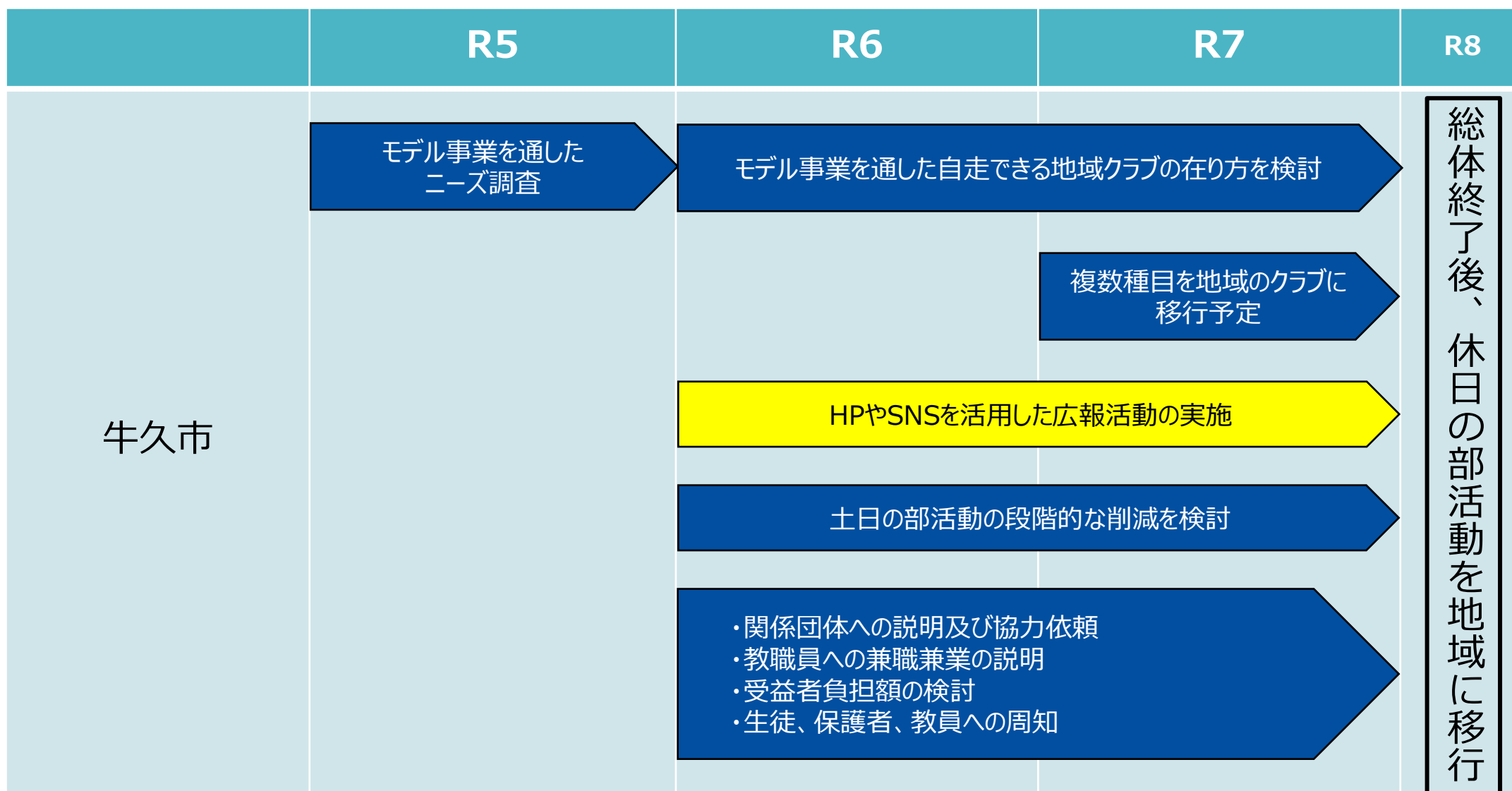
【モデル事業野球】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性



**【茨城県つくば市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	茨城県つくば市
担当課名	教育局学び推進課
電話番号	029-883-1282

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	256,526人	部活動数	198部活
公立中学校数	18校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	6,607人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	ガイドラインを策定、公表済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

つくば市は「谷田部東中、みどりの義務教育学校等」を筆頭に、以前より部活動改革に精力的に取り組んできた。その成果もあり、部活動改革に対する教員・保護者・地域住民の理解度が高いという特徴がある。また、令和4年度には平日の部活動を3日とし、土日と合わせて週4日間にするなど、部活動時間の適正化にも取り組んでいる。

R5年度は部活動改革の更なる推進を目指し、1校1事例以上を目標に部活動改革事業を実施してきた。期間限定での地域移行事例、及び移行準備中も含めて、18校中16校（残り2校のうち1校は県立中学校、1校は来年度初めから議論をスタート予定）で改革事業が進んでいる。

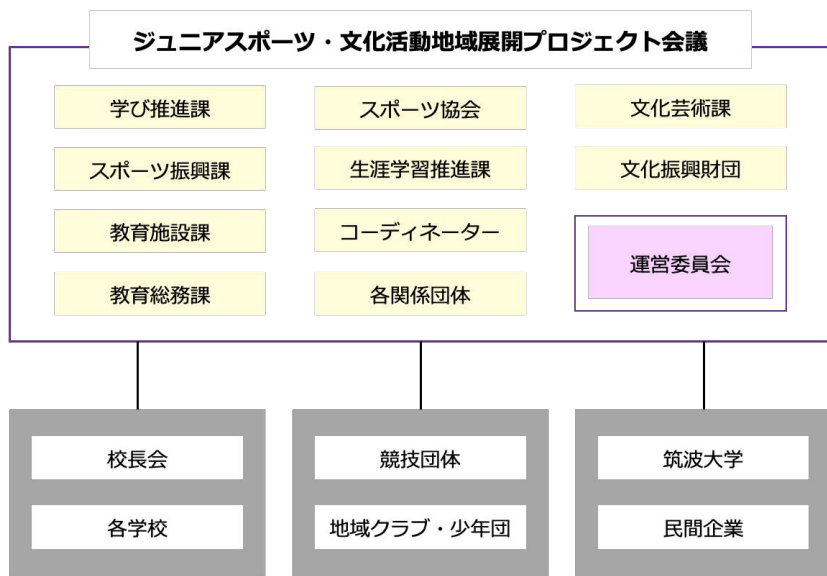
【課題】

つくば市には、筑波大学があり、指導者やスポーツ施設等に恵まれた中心地（人口増加中）と、少子化が進んでいる周辺部で環境に大きな違いがあるため、市内一律で改革を進めていくことが難しい状況にある。各地域の状況及びリソースに適した地域移行をできる地域・できる種目から推進しているが、学校や種目によって部活動と地域クラブが混在し、保護者の理解を十分に得ながら進めていくことが課題となっている。また、地形として南北約30kmと長く、特に周辺地域では拠点校型にした場合の移動手段にも課題がある。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割



▼行政組織内での主な部署の役割分担

教育委員会（学び推進課）

- ・ 学校と地域クラブとのマッチング
- ・ 全小中学校への周知案内（学校との連携）
- ・ 学校施設の使用許可
- ・ 教職員指導者の発掘（兼職兼業orボランティア指導者）等

つくば市スポーツ協会（※つくば市スポーツ振興課所属の外郭団体）

- ・ 地域の受け皿となるスポーツ少年団の発掘、教育委員会（学校）との連絡
- ・ 地域クラブ立ち上げに関する助言
- ・ 既存の指導者教育
- ・ 各専門種目の大会運営ノウハウの提供 等

年間の事業スケジュール

5月～9月

コーディネーターを3名任命し、R7年度末までのロードマップの作成、つくば市ジュニアスポーツ・文化活動地域展開プロジェクト会議の開催、校長会で事業内容や今後の方向性説明等を行った。また、各学校に「1校1事例」の目標を目指し、学校でのヒアリングとクラブマッチングを行った。みどりの学園等での実証事業の開始。

9月～11月

複数校の生徒を含んだ地域移行の実証団体の活動や竹園東中学校での期間限定地域移行トライアルの開始。スポーツ振興課における外郭団体である「つくば市スポーツ協会」を軸とした地域スポーツ活動体制の構築に向けて議論を開始。必要なガバナンス体制の検討、地域クラブへのヒアリング等を行った。

11月～2月

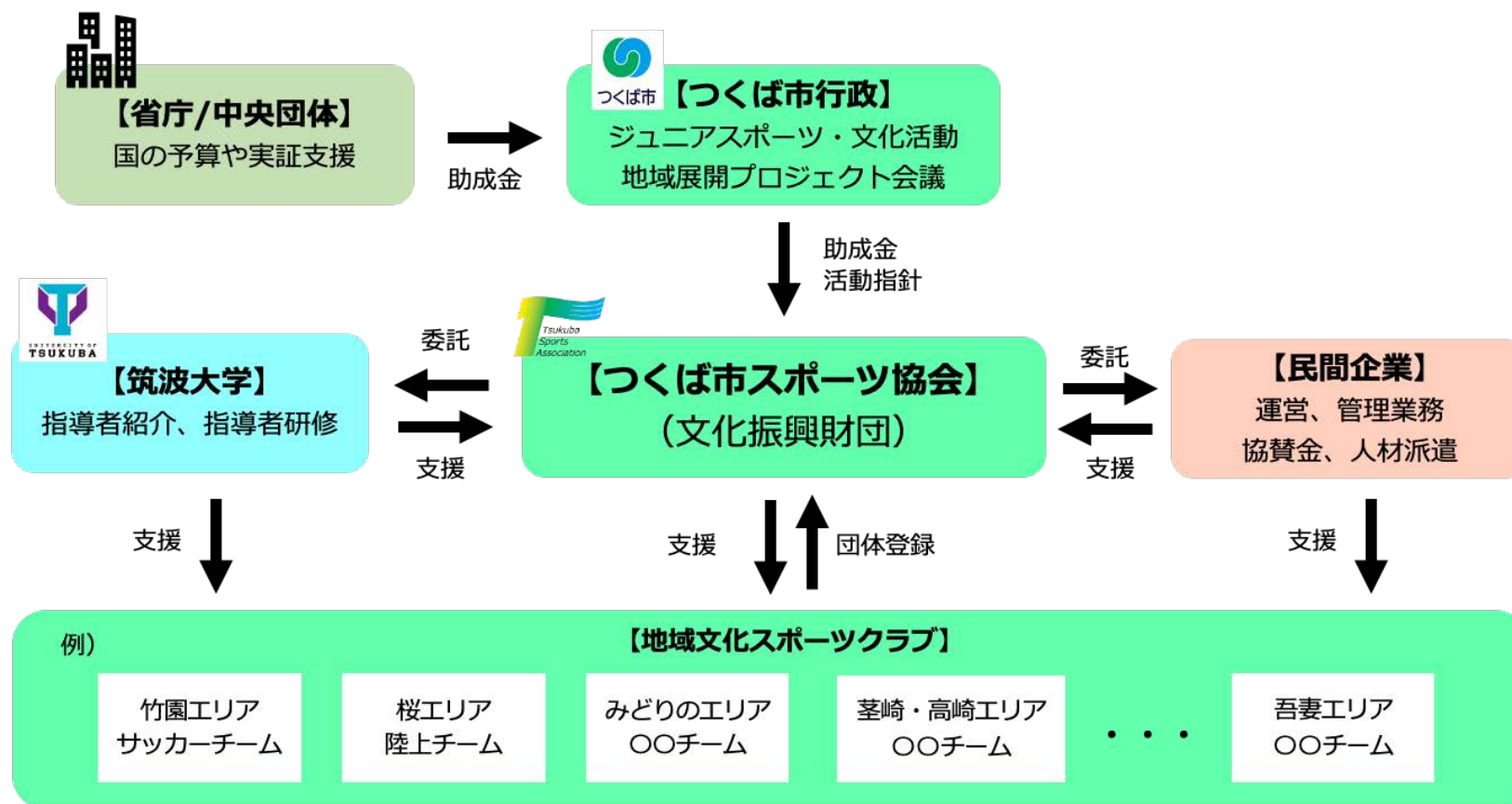
中学生年代に対する新しい地域スポーツイベントの創設に向けた準備を開始。また、スポーツ協会、筑波大学、JTBとが協力し、産学官連携によってヒト・モノ・カネを持続的に調達できる仕組みを構築していくことを次年度の方針として位置づけ、地域スポーツ側から改革を推進していく体制を整えている。

2. 運営組織図

想定する地域スポーツ活動運営体制

スポーツ振興課の外郭団体である「つくば市スポーツ協会」を軸とした地域スポーツ活動体制の構築を目指す。

スポーツ協会による地域クラブのガバナンス体制のもと、筑波大学や民間企業（株式会社JTB等）等が協力し、産学官連携によってヒト・モノ・カネを持続的に調達できる仕組みを構築していく。



行政・スポーツ協会（文化財団）が、地域クラブの立ち上げ、運営をサポート

（団体登録、ガバナンス、指導者紹介、施設利用、決済・連絡ツール紹介 etc..）

現状の市内の各校取組（休日移行）の状況

学校名	評議長	担当教員	生徒数	野球	バレー		バスケット		ソフトテニス		卓球		バドミントン		サッカー	剣道	柔道	陸上	水泳	ハンド		吹奏楽
					男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子						男子	女子	
桜	嶋田		372			谷田部 桜 水曜活動中											つくば中央	桜AC (12月～)				
春日	根本		393				グリーン デビルズ	グリーン デビルズ	春日テニス クラブ	春日テニス クラブ	JTB ～2月	JTB ～2月					△					
学園の森	中野		398	少年団 (★合同)			JTB ～2月				JTB ～2月	JTB ～2月			東光台							
研究学園	板谷		56								JTB ～2月	JTB ～2月			東光台							
手代木	四位		583																			
みどりの	谷池		359	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス	エンボス		エンボス				エンボス
谷田部	若山		435	大人球団？ 学練合同？		谷田部 桜 水曜活動中									倉持さん		つくば中央					
高山	荒井		366	少年団 (★合同)																		
谷田部東	永井		627														つくば中央					
並木	頭賀		344												Do Club							
(並木中等)	深澤		478																			
荏崎	小林		171																			
高崎	井橋		329																			
			41		23										移行完了		移行準備中		期間限定			

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・市内の各学校の部活動改革担当教員や管理職が登録するTeamsのグループを作成。全体への情報発信や共有を行った。
- ・竹園東中学校では、筑波大学発のベンチャー企業である「Aruga」アプリを利用し、参加者の保護者と直接連絡を取れるシステムを作った。
(指導者はアプリから連絡⇒保護者はLINE上で受信と返信を行うアプリであるため、個人情報伝はなくてもやり取りができる仕組み)
- ・市の外郭団体である、「つくば市スポーツ協会」と連携し、各少年団やクラブチームとも連絡を取り、指導者を募った。

取組の 成果

反省

- ・カギの管理方法について（スペアを作るか？保管場所を教えるか？問題）
- ・保健室が対応できないので、「救急箱」を手配できないこと
- ・保護者への連絡体制の整備が課題であった。
重大な事故怪我：指導者より直接の連絡
軽度な負傷：事務局より事後報告 ⇒ この差はどこにするのか？

特に 工夫した 事項

- ・指導時点から受益者負担が高額にならないように、補助金を利用した。
- ・スポーツ少年団への移行（6年間⇒9年間への拡張）により、少しの負担から始められる体制を整えている最中である。
- ・平日の部活動と並行して実施するので、顧問の先生との情報交換を意識した。
- ・特に人間関係のもつれは、学校生活にも影響を与えかねないので注意した。

今後の 課題と 対応方針

- ・学校側へのアプローチを重ねても限界があるため、これからはスポーツクラブ側へのサポート体制を強化していく。
- ・アプリ利用料などのシステムに関わり部分は、行政の仕組みで整えた方が統一して効率化が図れる。市の予算化を念頭に入れ交渉していく。
- ・保護者への連絡に苦労した。また鍵の保管場所・受け渡し・指導者の急な欠席への対応に苦労した。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・スポーツクラブや少年団の指導者の場合と、筑波大学の学生の2パターンが多かった。
- ・指導者の質に関して：大学生指導者には、筑波大学での指導者講習を行った。スポーツ少年団には行っていない。
- ・指導者の量に関して：市内93のスポーツ少年団・筑波大学の学生や大学院生に協力いただいた。（教員の兼業は市内全体で23名、実証事業に該当する団体に限ると5～6名程度）

取組の成果

- ・大学生の強み
（その競技種目の指導力・専門的知識）
- ・学校の先生の強み
（中学生という敏感な年代の子どもへの接し方、関わり方、コンプライアンス）
- ・少年団指導者の強み
（小学生から地域の子どもを育てようという気持ち・その種目への熱量）

特に工夫した事項

- ・以前は、筑波大学の学生アスリートを中心に考えていたが、アスリートだけでなく、体育学部以外の学生や、一般学生（高校終了時までスポーツ経験を持つ）も視野に入れ指導者のリソースを拡大してきたことが収穫。中学生を指導することにおいて、一流アスリートである必要はない。
- ・先生が持ついい部分の伝承について検討する必要がある。スポーツ少年団の指導者は必ずしも“教育”のプロではない。生徒に寄り添う部分は先生が上。この点をよく理解して、いかに先生のいい部分を伝承するか検討を始めた。

今後の課題と対応方針

- ・学生アスリートを中心とした筑波大学の“スポーツ教室”事業をサポートし市内でも活性化させる。
- ・筑波大学のリソースを最大限引き出すために、今後も連携を加速させる。（部活動指導員として登録している学生をほかの形で協力依頼）
- ・教員とスポーツ少年団指導者を引き合わせ、教員のよい部分を引き継ぐ。（指導を続けたい教員を少年団指導者に登録してもらうことも可）

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・市内の企業との連携を始める（エンボス企画・関彰商事・つくばFC・日本スポーツアカデミー・株式会社JTB）
- ・1番の協力先として、「つくば市スポーツ協会」との連携を強化する
- ・スポーツクラブには得意な部分を任せていく、企業には企業のメリットを生かした協力を求めていく。

取組の成果

- ・エンボス企画：
今年度も連携を重ね、新規創設種目での指導者謝金援助を行った
次年度はみどりの・みどりの南中学校の2校で「完全移行」を目指し取組いただく
- ・JTB
竹園東中学校での取り組みを依頼連携した。昨年よりアップデートし、
学校の部活の延長指導⇒期間限定の地域スポーツとして取組いただいた。
- ・つくば市スポーツ協会：
市外郭団体であるスポーツ協会との連携がスタートした。
学校⇒地域へ移行する際の
「地域側」の受皿として、スポーツ少年団を統括している
スポーツ協会を中心に、少年団側への呼びかけを開始
すでに3件の地域スポーツが進行している。
少年団にもメリットがある事例になっている

特に工夫した事項

- ・コーディネーター
コーディネーター3名もあらゆる分野から招聘した。（筑波大学・株式会社JTB・スポーツ協会所属のバレーボールチームのコーチ）
行政内の人間関係やしがらみに左右されない外部からの招聘により、行政内の横の連携の協会にもつながっている。
筑波大学からの1名は、「研究機関」の大学ということもあり、説得力のあるデータを基に資料作成を行ってくれた。
- ・スポーツ協会
スポーツ協会を監督している「スポーツ振興課」との横の連携を進められたことが今年の成果である。次年度は、
地域側／学校側 それぞれの強みを生かした連携により、更なるスピードアップを図る予定である。

今後の課題と対応方針

- ・資金調達
- ・必要な経費を、スピード感をもって支援できる仕組み（行政では不可能な部分である）、スポーツ協会と連携し進めていく。
- ・企業を価値を生み出していく賛助企業との連携協定を進めていくこと

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

- ・市内を4～5の区画に分ける新設計を校長会で提案した。
- ・小学校と中学校を分けずに9か年で考える方向性を示した。
- ・種目ごとの特性を考え、エリアごとに拠点校を設け、それをベースにエリア型拠点モデルを組んでいく設計を検討してきた。
- ・自転車で通える範囲（通えない場所も一部あるが）にスポーツ体験を準備するという方向性を確認した。

取組の成果

- ・市のホームページに部活動改革の方向性を示した資料を掲載した。
- ・各学校部活動が地域移行を始める際の保護者説明会で利用する共通説明資料を作成した。
- ・市内のすべてのスポーツ少年団を地図にまとめ、学校に共有した
- ・スポーツ少年団のなかで各種目のまとめ役を専門部ごとにお願した。

特に工夫した事項

- ・人口増加率／減少率を考慮すること
- ・学校の距離や場所を考慮すること
- ・スポーツ種目によって流動的に変更すること
- ・種目に応じた拠点校ベースで設備を改善していく計画をしていくこと
- ・小学校に協力を深く仰いでいくこと
- ・近隣の学校での連携をお願いすること
- ・合同チームの作成方法を再検討すること（距離や関係性を考える）

今後の課題と対応方針

- ・総合型地域スポーツクラブとの連携を行い、協議志向の生徒を受け入れてもらえるように依頼していく。
- ・筑波大学のもつリソースと施設を生かし、上記と同じような競技志向の生徒を受け入れていただけるようお願いしていく。
- ・各種目ごとに、地域スポーツ団体が主体する大会を設定する。（周辺市区町村も巻き込む）

エリア型拠点モデルの考え方

中学校数・・・19校（県立中、私立中含む）実際は17校

中学生生徒数・・・7,350人

運動部参加数・・・4,681人（全生徒の63%）

運動部数・・・211チーム

少年団チーム・・・93チーム（スポーツ協会登録）

<補足>

- ・基本的には市内を4つに分割
- ・各エリアで種目を統括
- ・1エリア：1～2チーム構成
- ・移動は各個人に一任する
（移動サービスは物理的に不可能）
- ・活動主体は各クラブ
- ・会費は各クラブに一任する
- ・種目ごと拠点を定める

※イメージは習い事と同じ扱い



<種目ごとにエリアの拠点校を設定（例）>

野球：研究学園

バスケットボール：春日学園

サッカー：学園の森

卓球：研究学園

バレー：学園の森

テニス：春日学園

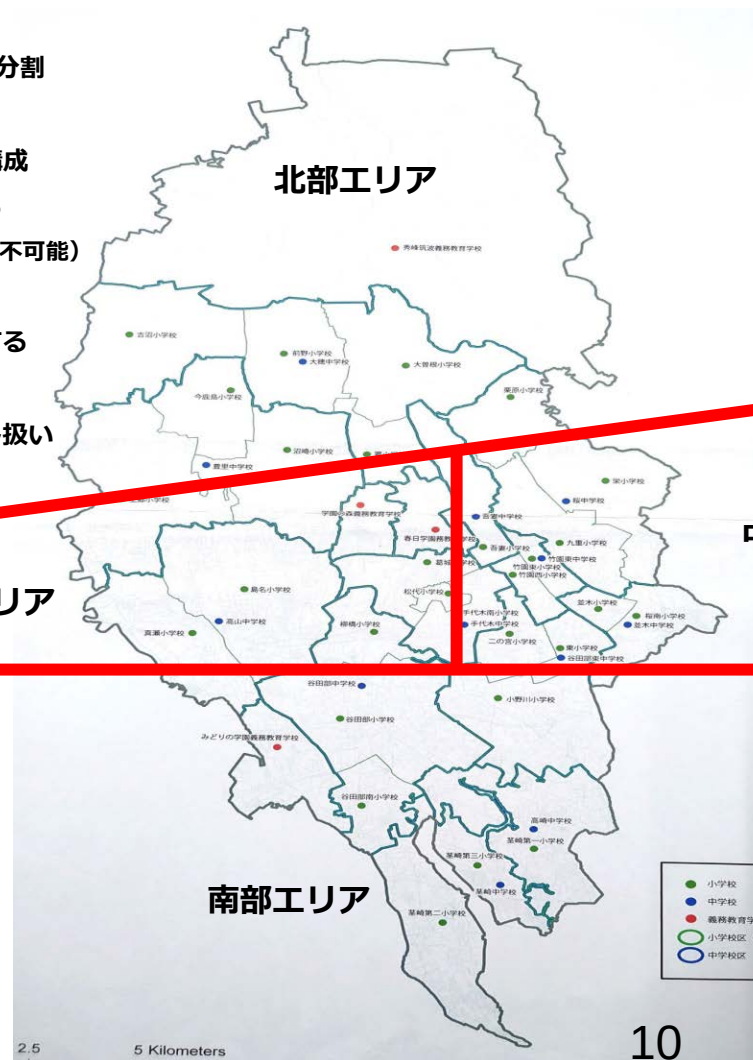
※各エリアで動き出しているクラブの拠点を優先

中西部エリア

北部エリア

中東部エリア

南部エリア





11



＜学校から部活動を縮小させる取組＞ （学校側）



＜新たな地域スポーツを創る取組＞ （クラブ側）



2 土日の地域移行を協議
（場所・時間・会費・運営体制等）



1 地域のスポーツ団体から地域移行受入を学校に提案（クラブ、スポーツ協会、学び推進課）

3 地域移行のための保護者会を設定



4 保護者説明会の実施（学校と協力）



6 エリア内の近隣学校にも周知



5 学校施設におけるクラブ活動の開始

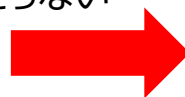


7 移行していない学校の生徒も
地域クラブ or **学校の部活**
個人の選択肢が増える



8 指導者の確保と育成
地域クラブの発足支援・運営支援
地域移行専用の大会を設定

集まらなくなった部活は新入生をとらない
→ **廃部を検討**



学校の部活・小学校からの地域クラブ
“**子どもが自己選択する環境**”になれば、
それが1番自然な地域移行であると認識

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・指導者謝金での支援を行ったが課題が残った。
- ・スポーツ少年団との連携で低価格からスタートした。（教員の兼業には向かないが、指導したいがお金はいらない指導者にはいい）
- ・市独自の取組として「困窮家庭への参加費支援交付金」をスタートさせた。

取組の成果

- ・指導者謝金という「人」に対する謝金支援を、スポーツ団体は望んでいないことが多かった。
⇒ 地域指導者に謝金を出すことを敬遠される方も多かった。
（そもそも地域指導者は、次世代を育てることに重きを置いているため）
- ・指導者謝金ではなく、「道具」・「ユニフォーム」・「受入開始のための初期費用」を望んでおり、指導者への謝金では支援方法として適していないことを理解した。

特に工夫した事項

- ・謝金だけでなく、どのような支援が地域スポーツ団体の動機となるかを調査できた。
- ・新規立ち上げのクラブや複数校にまたがる生徒が含まれているクラブ、またはその形を目指して取り組んだクラブや団体に焦点を当てて指導者謝金を支援した。
- ・市の独自の制度で「困窮家庭への支援」を実施した。約200万円程度を予算化

今後の課題と対応方針

- ・次年度は指導者謝金 以外の方法で支援できるように計画している
（道具・ユニフォーム・アプリ導入・初期費用を補助）
- ・また、行政の縛りから解放され、規定の範囲内でスピード感をもって支援できる「スポンサー支援金」を受けられるような体制づくりが急務である。

企業側目線での連携メリットについて（イメージ図）

つく・スポ（仮称）

Point
メリット①：スピード
税金ではないため、必要なもの（政策）に
ピンポイントに支援できること

Point
メリット②：継続的な支援も可能
親和性のある業界であれば、明確な協業がで
き、継続的な支援を期待できる



マーケティング価値の創出

- 次世代マーケティング・ファンづくり
- 企業ブランド価値の向上
- 地域におけるレピュテーション向上
- 新たな顧客関係性の構築
- マーケットシェア拡大

次世代支援を通して
企業価値の向上を目指す

社会的価値の創出

- SDGs等への貢献
- 社会課題への対応
- 地域課題・地域活性への対応
- 次世代人材育成への寄与
- レピュテーション向上 等



呼称権

参加記念品提供

ファンづくり

サイドイベント

学習コンテンツ提供

キャンペーン告知

商品勝発

各種資料への企業名掲載

PR効果

CSV
共通価値の創造
Created Share Value

社員指導者の派遣

従業員エンゲージメント

地域貢献

次世代育成

新たな交流創造

SGDs 貢献

Potential Meets You

探究学習

働き方改革

地域・民間で支え持続可能なモデルに

中央省庁
予算

自治体
予算

クラウド
ファンディング

企業版
ふるさと納
税

企業協賛

寄付
大学OB・
OG
地域住民

ロータリー
クラブ

学校施設
収益化

ネーミング
ライツ

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・学校施設を有効に活用するため、“夜間開放”と学校の校長先生の権限である“放課後”の施設利用について、次年度には、地域移行が主となる時間帯を設けることを検討
- ・夜間開放を担当している「教育施設課」との連携を開始した。学校の校長先生にも方針を伝え、地域移行優先で進めることを確認した。
- ・地域クラブを対象とした（部活動は参加不可）バレーボール大会をトライアル実施した。

取組の成果

学校施設開放に向けての論点を各チームや学校と話し合っている。

- ・時間帯の共通設定（地域移行優先時間⇒その後の学校開放）
- ・カギの作成と管理方法、救急箱の設定、保健室の役割の整備
- ・体育館やグラウンドの予約システムの構築の議論
- ・学校施設の商業目的での使用についての議論

地域クラブ対象の大会は大変好評であり、このようなクラブ主体の大会が増えると、大会に関する問題解決の糸口となるのではないかと。

特に工夫した事項

- ・イベントの発案
次年度の方針として、子どもたちの意見を直接聞く場・保護者の意見を聞く場を設定する
これに加え、学校にないスポーツ体験をできる「スポーツフェスティバル」を発案し、筑波大学との連携の中で次年度の目標とする
- その他：
 - ・設定時間の変更、・部活ごとの時間帯区別、・拠点校の考え方を学校やクラブと共有した。
 - ・上記今年の検討事項を、次年度は結果として運用開始できるよう協議していく。
 - ・大会については、あえてクラブ限定にする事で、地域移行をしたクラブのメリットを生み出した。

今後の課題と対応方針

- ・上記の中でも、特に学校施設の商業目的で利用をどこまで承認できるかが課題である。
- ・お金を循環させるためには、上記の仕組みを作り、協賛企業が学校施設を使って地域移行に関わるビジネスができるような議論が必要。

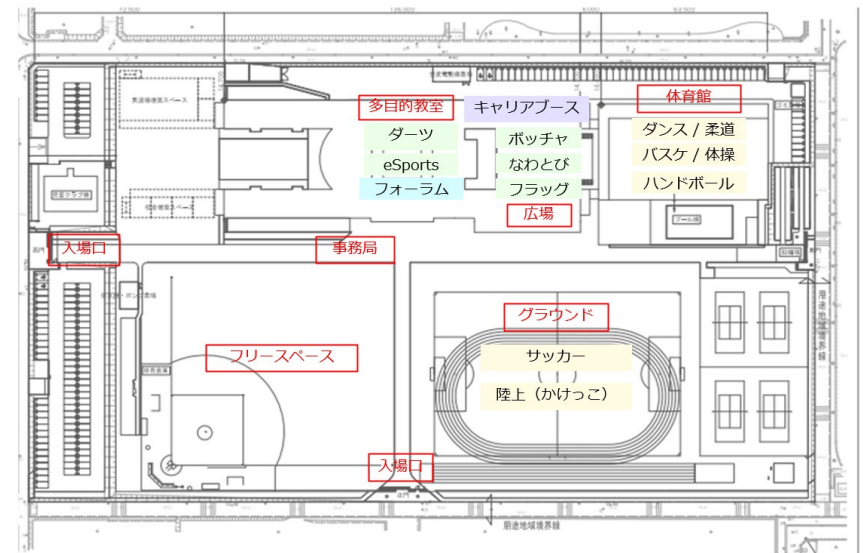
マルチスポーツフェスティバルの計画（次年度予定）

- 【会場】 市内中学校・義務教育学校
- 【チケット】 無料
- 【主催】 つくば市スポーツ協会
- 【協力】 筑波大学体育スポーツ局、株式会社JTB
- 【特別協力】 イマチャレ製作委員会、つくば市教育局
- 【協賛】 各民間企業

学校施設を有効活用したスポーツ体験活動を計画している
学校にないスポーツを体験できる場でもある



	体育館	グラウンド	広場	多目的教室	広場 or 教室
10:00					
11:00	ダンス教室 / 柔道	サッカー教室		eSports体験 ダーツ体験	
12:00	(昼休憩)		ボッチャ体験 なわとび体験	(昼休憩)	キャリアブース TSUKUBA LIVE ブース
13:00	バスケット教室 / 体操	かけっこ教室	フラッグフット体験	eSports体験 ダーツ体験	
14:00	小学生 ボールゲーム大会 (低学年・高学年同時開催)			<市民向けフォーラム> つくば市の 文化スポーツ活動の 未来を語ろう	
15:00					
16:00	ハンド大学生 エキシビジョンマッチ				



2. 実証内容と成果①（保護者アンケート）

参考資料：竹園東地域スポーツ事業 保護者アンケート結果

3. 地域スポーツ活動全体の満足度はどのくらいですか？
（1 全く満足していない ～ 5 とても満足している）

詳細

1	0
2	4
3	6
4	10
5	21



13. 小学校の時に所属していたスポーツ少年団に、中学校になっても継続して所属できる場合、学校の部活とスポーツ少年団どちらに入りたいですか？

詳細

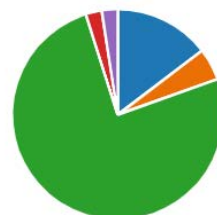
学校の部活動	24
地域スポーツ（スポーツ少年団）	17



7. 参加費の金額（1回500円）はいかがでしょうか。（1 安い - 5 高い）

詳細

1 安い	6
2 やや安い	2
3 適正	31
4 やや高い	1
5 高い	1



- ・保護者からは全体的に満足の声が多かった
- ・種目によって差が出た部分もある
- ・受益者負担額500円には、以外にも「安い」との意見もあった
- ・次年度は少し増額してもいいサービスを受けたい希望を考慮

- ・今回初めて聞いた質問である。
- ・地域スポーツをへ移行した際、中学生では部活を行わなくなることが起こる場合、小学校から継続したスポーツ体験を望む保護者が想定数より多くいたことがわかった。

⇒ 小学校やスポーツ少年団との連携により、小中を区切らないスポーツ経験の仕組みづくりは保護者にも受け入れられやすいことが考えられる。
次年度の取組として検討していく。

2. 実証内容と成果②（生徒アンケート）

参考資料：竹園東地域スポーツ事業 生徒アンケート結果

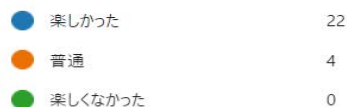
3. 地域スポーツ活動全体の満足度はどのくらいですか
（1 全く満足していない ～ 5 とても満足している）

詳細  インサイト



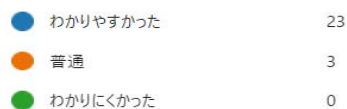
5. 地域指導者との活動は楽しかったですか？

詳細  インサイト



6. 地域指導者の教え方はわかりやすかったですか？

詳細



・子どもの評価も保護者とさほど変わらなかつた

・楽しかったという生徒が約9割を占めた。

・わかりやすかったという意見も9割を超える。

⇒ 大学生の言葉はより子どもたちに近いのでは？

⇒ 普段の練習では制限されることが多いのか？

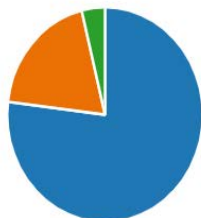
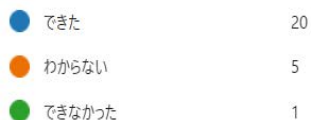
・一概には言えないが、顧問の先生だけでなく、多くの指導者からの意見を聞きながら生徒は取捨選択していくものではないか？

2. 実証内容と成果③（生徒アンケート）

参考資料：竹園東地域スポーツ事業 生徒アンケート結果

7. 地域指導者の指導によって成長（技術、体力、知識など）できましたか？

詳細  インサイト



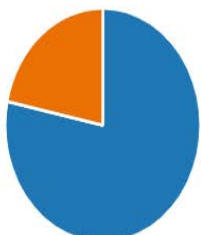
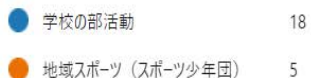
8. 指導者（大学生・大学院生）の試合を見に行く機会があったら、見に行ってみたいと思いますか？

詳細  インサイト



13. 小学校時代に所属していたスポーツ少年団で、中学生になっても引き続き指導を受けられるとなった場合、学校の部活と、スポーツ少年団のどちらに入りたいですか？

詳細  インサイト



・自身の成長につながったかも重要な観点である
・今回は技術指導を中心にお願いした。

・大学生のアスリートが指導してくれた部も多く、
逆に大学生のプレーを見てみたいという生徒も多かった

・つくば市は筑波大があるという利点を生かし、
大学と子どもたちが双方にWIN/WINである取組をして
いくことが、成功のカギかもしれない。

・この質問は保護者よりも少ない割合となった。
・やはり中学では仲間作り、人間関係の構築に部活動
が一役買っていたことも想定される。
・この点をどう地域スポーツに落とし込むか？も課題だ

2. 実証内容と成果（参考資料）

参考資料（活動写真） 上段：地域スポーツが中心の市内大会の様子

下段：ソフトバンク社のAIスマートコーチ体験会の様子



【スポーツ協会連携のバレーボール地域移行大会】



【地域移行で活動しているチームの大会を企画した】



【iPadのスマートコーチアプリを使い、探究をする様子】



【みんなで意見を出し合い、自身のプレーを見直す】

3. 今後の方向性（ロードマップ）

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

達成目標・・・**R7年度末**までに**休日の部活動**に関わる「**教員**」を**0**にする

ロードマップ		R5	休日地域活動 1校1事例以上	R6	休日地域活動 50%	R7	休日地域活動 100%
	運営体制	クラブと学校のマッチング推進		クラブと学校のマッチング推進			
		クラブ立ち上げ支援体制構築		クラブ立ち上げ支援、指導者紹介			
		指導者の量・質確保方法の確立					
	施設	部活時間の施設利用体制の検討		部活時間の施設利用			
		効率的な施設管理法の検討		教員が関わらないかたちでの施設利用・管理			
		学校施設の民間利用法の検討		学校施設の民間利用の促進			
	財源	必要経費の算出、助成金・予算どり		助成金・市財源からの支出			
		多様な財源（協賛、寄附、学校施設の収益化）の獲得					
	大会イベント			つくば市独自の文化スポーツフェスの開催（年3回？）			
				つくば市独自のリーグ戦の開催（月1・2回の試合？）			

3. 今後の方向性（地域展開の改革3年間イメージ）

2023年（改革1年目）

学校側・・・各校1事例の地域移行

部活動：週4日

地域側・・・スポーツ協会との連携開始

→ 少年団への情報共有

教育局、市民部の協力を得ながら、

スポーツ協会・筑波大学・JT Bとの連携

による“プロジェクト”の検討

2024年（改革2年目）

学校側・・・各校50%の種目を地域へ

部活動の時間短縮等を検討

休日移行→徐々に週3回へ

地域側・・・本プロジェクトのスタート

①スポーツ少年団への周知連携

②学校への同行（施設利用の許可）

③地域連携の開始

④中学生の地域スポーツ団体の大会

⑤スポーツフェスティバルの実施

2025年（改革3年目）

学校側・・・土日の地域移行の完了

部活は週3回（平日のみ）

人数が集まらない種目は、

廃部を検討していく

可能なら平日移行も検討

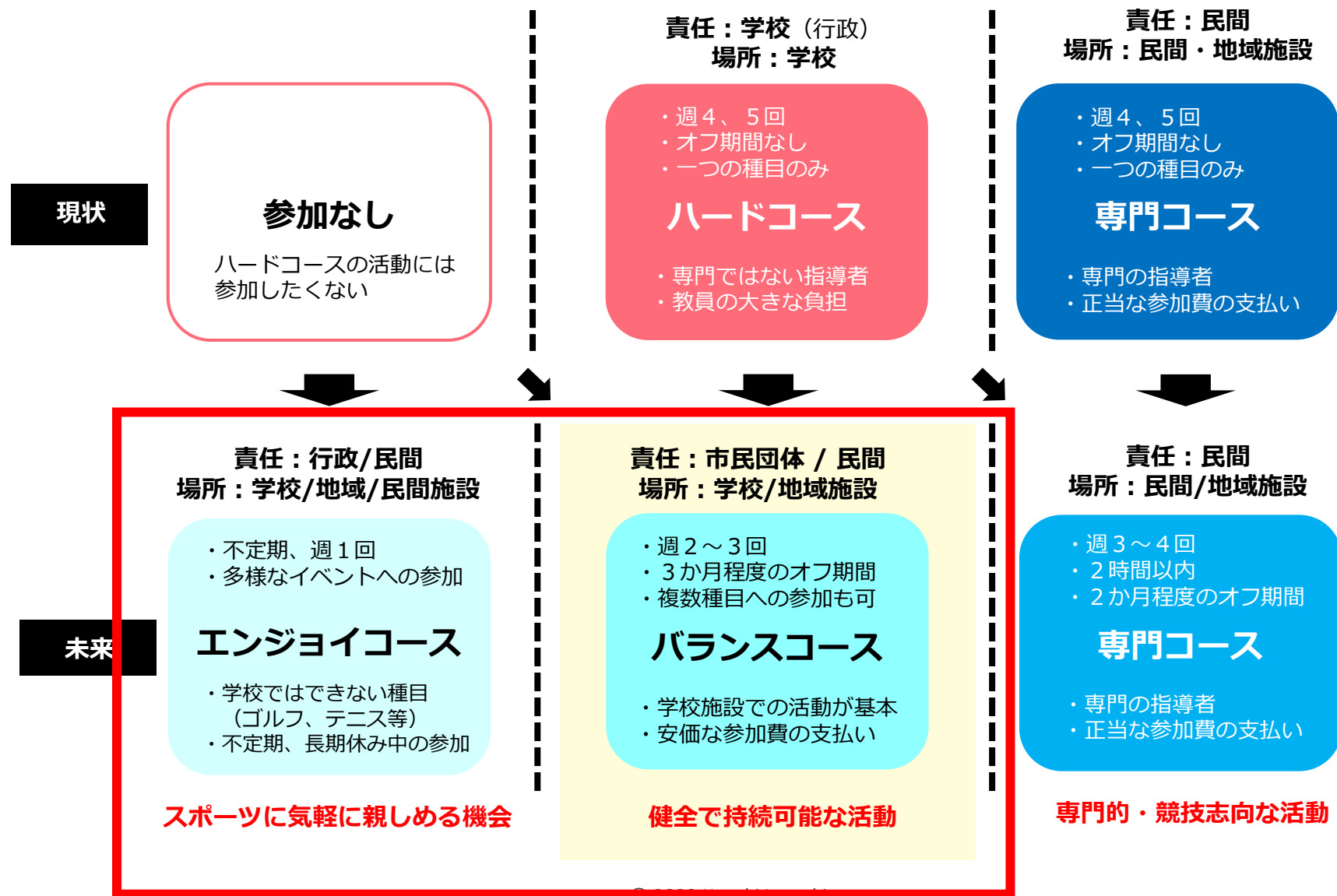
地域側・・・地域スポーツの広がり

①近隣の学区エリアを巻き込みエリア化

②各エリアでの活動拠点化

③拠点での大会・イベントの実施加速

3. 今後の方向性（中学生年代に必要なスポーツ体験の考え方の例）



地域移行で取り組む範囲としては、赤く囲った範囲のように、気軽に楽しめる機会や健全で持続可能な地域スポーツ活動体制である。（競技志向な活動との区別）

3. 今後の方向性（次年度キーワードになるポイント3点）

① 「自然な流れの地域展開」

部活動からの移行△ → 生徒がスポーツ活動を自ら選択○

② 「子どもファースト」

スポーツ活動の選択肢を用意し、選択するのは子どもである

③ 「地域スポーツ側からの変革」

学校側への働きかけと同様に、地域スポーツ環境を整え、魅力を作り伝えていく

**【茨城県守谷市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	茨城県守谷市
担当課名	守谷市教育委員会生涯学習課
電話番号	0297-21-2686

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	69,827人	部活動数	42部活
公立中学校数	4校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	1,939人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

市内4中学校で、52の部活動（スポーツ：42（10種目）、文化：10（4種目））が活発に行われている。

週3日の5時間授業日（アーリーデー）に部活動を実施して、活動時間の確保と生徒の早期下校（16:50※教員の退勤時刻に近付ける）を両立したり、部活動も授業同様に 50 分単位とし、週 7 コマ（月 2・火 1・水 2・金 2）の活動内容を効率化・定型化により外部指導者との連携を図れる体制にしているが、専門でない分野の部活動の顧問を任されてストレスを抱える教員や教員の半数が部活動に負担を感じているとの調査結果もあり、計画的に地域移行を進める必要がある。

【課題】

- ・指導者の確保（コーディネーター、指導者、サポーターの確保）
- ・活動費用の負担（指導者謝金、傷害保険料等の保護者負担）
- ・活動場所の確保（校舎使用におけるセキュリティ管理）
- ・生活スタイルの変化（夜間活動等による塾・習い事との調整）
- ・大会への参加・運営（審判員、運営スタッフの確保）
- ・段階的に一部の部活動を地域クラブとして実施するため、前月末に決定する学校の部活動スケジュールに合わせた休日指導者のシフト管理
- ・平日部活動の指導者である教員と休日クラブ活動の指導者との連携や情報共有の手段
- ・個人情報の取扱い

週3日「アーリーデー」の導入による部活動改革

中学校 部活動改革日課（スタンダードシーズン）				
月	火	水	木	金
アーリーデー		アーリーデー		アーリーデー
朝の会				
～部活動の時間について（目安）～				
○月・水・金曜 15:00～16:40 50分×2（休日の1日）				
○火曜 15:50～16:40 50分				
○木曜 部活なし				
○休 日 3時間程度（土日はいずれか1日）				
給食				
昼休み				
5 部活動時間 15:00 ～ 16:50 部活動終了 放課後 運動部は 部活動終了後	100分	50分	100分	部活なし 16:00下校
部活動終了後 16:50 下校				

（1）週3日の5時間授業日（月・水・金曜日）をアーリーデーとし、年間を満した充実した部活動の時間を確保
 ・平日 2時間程度×3日、1時間程度×1日、休日：3時間程度【注】
 ○生徒の身の周りの発達に配慮した積極的な練習の予定
 ○毎週木曜、隔週月曜日の（休日の）設定
 ○週末土日いずれかの休日の設定
 ○児童生徒の安心・安全を確保するための下校時刻の設定
 ・部活動終了後は16：50下校
 （スタンダードシーズン、オファシーズン）

○スタンダードシーズン（年間）
 ・練習時間【平日：100分×3日、50分×1日、休日：3時間程度】
 ・休養日【毎週木曜、隔週月曜、土日いずれかの1日】

○チャレンジシーズン（総合体育大会、新人体育大会 3週間前）
 ・練習時間【平日：2時間×4日、休日：3時間程度】
 ・休養日【毎週木曜、隔週月曜、土日いずれかの1日】
 ・チャレンジシーズンは上位大会（県南・県）への進出ができるようになった部活動はスタンダードシーズンに移行

○オファシーズン（11月～1月末）
 ・練習時間【平日：100分×3日、休日：3時間程度】
 ・休養日【毎週火・木曜、隔週月曜、土日いずれかの1日】

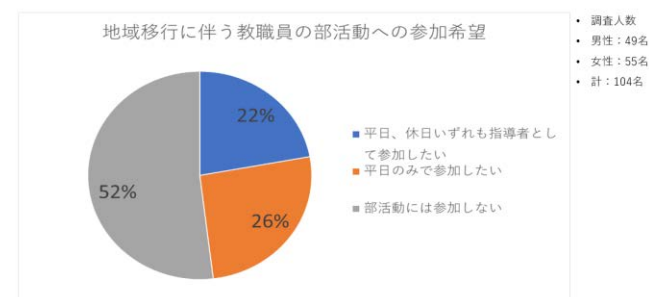
（2）週3日の5時間授業日（月・水・金曜日）をアーリーデーとし、年間を満した充実した部活動の時間を確保
 ・平日 2時間程度×3日、1時間程度×1日、休日：3時間程度【注】
 ○生徒の身の周りの発達に配慮した積極的な練習の予定
 ○毎週木曜、隔週月曜日の（休日の）設定
 ○週末土日いずれかの休日の設定
 ○児童生徒の安心・安全を確保するための下校時刻の設定
 ・部活動終了後は16：50下校
 （スタンダードシーズン、オファシーズン）

○スタンダードシーズン（年間）
 ・練習時間【平日：100分×3日、50分×1日、休日：3時間程度】
 ・休養日【毎週木曜、隔週月曜、土日いずれかの1日】

○チャレンジシーズン（総合体育大会、新人体育大会 3週間前）
 ・練習時間【平日：2時間×4日、休日：3時間程度】
 ・休養日【毎週木曜、隔週月曜、土日いずれかの1日】
 ・チャレンジシーズンは上位大会（県南・県）への進出ができるようになった部活動はスタンダードシーズンに移行

○オファシーズン（11月～1月末）
 ・練習時間【平日：100分×3日、休日：3時間程度】
 ・休養日【毎週火・木曜、隔週月曜、土日いずれかの1日】

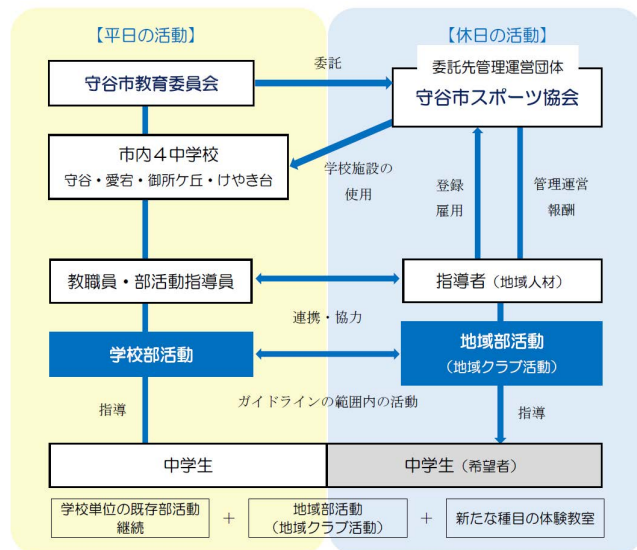
【参考】 アンケート結果 令和4年6月実施



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（生涯学習課）

運営方針・推進計画・ガイドライン策定、委託先管理運営団体の管理監督、運営協議会の設置

● 首長部局（市民協働推進課）

公共施設の貸出し

年間の事業スケジュール

- ・4月 第1回検討会議の開催（関係者間の顔合わせ、方針の確認）、拠点校における実施準備
- ・5月 地域指導者向け研修会①の実施、地域スポーツクラブ活動の活動開始（愛宕中）
- ・6月 保護者アンケートの実施、地域スポーツクラブ活動の活動開始（けやき台中、御所ヶ丘中、守谷中）
- ・7月 第2回検討会議の開催（進捗状況の報告等）
- ・8月 関係団体ヒアリング（部活動改革、地域スポーツの今後について）
- ・9月 地域指導者向け研修会②の実施
- ・10月 交流イベントの実施、部活動改革に係る事例検討会の開催（各学校）
- ・11月 第3回検討会議の開催（中間まとめ、検討事項の洗い出し）
- ・12月 地域指導者向け研修会③の実施
- ・1月 拠点校・保護者等へのアンケート調査実施
- ・2月 第4回検討会議の開催（成果報告、来年度に向けた検討課題）
- ・3月 事業完了報告書・成果報告書等の作成

※その他アンケート調査、ヒアリング調査を随時実施

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

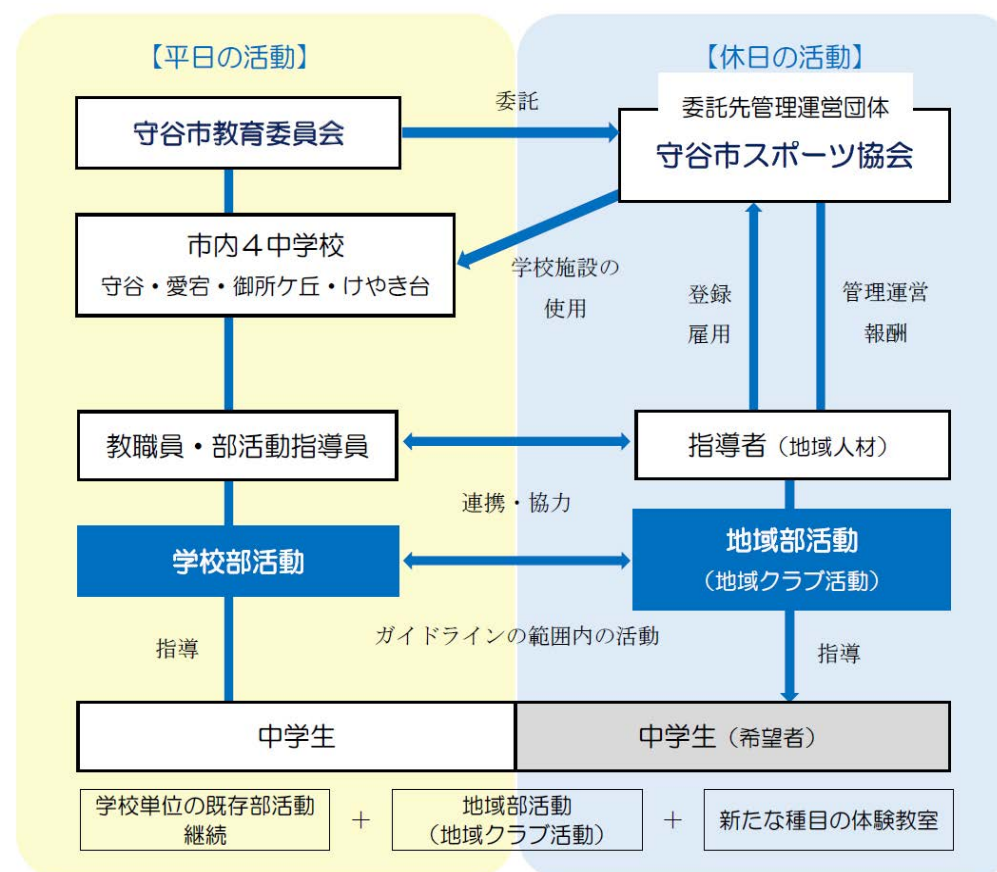
拠点校数	4校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	男子卓球、女子卓球、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、男子バドミントン、女子バドミントン、サッカー、男子ハンドボール
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	8部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	守谷市立愛宕中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	8部活
地域クラブ活動で実施した種目	男子卓球、女子卓球、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、男子バドミントン、女子バドミントン、男子サッカー、男子ハンドボール
運営主体名	一般社団法人守谷市スポーツ協会
運営類型	地域スポーツ団体等運営型（体育・スポーツ協会運営型）
1か月あたりの平均的な活動回数	月4～5回程度月
指導者の主な属性	会社員、事営業、学生
活動場所	学校体育施設
主な移動手段	自転車、徒歩及び保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 ※移行期間中は徴収なし 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

統括コーディネーターを配置し、市との連絡調整、活動計画及び報告書の作成、提出、学校との連絡調整、試合等への参加にかかる調整、活動中の事故やけがへの対応及び報告、参加生徒の保護者への連絡調整、学校施設及び物品の使用管理、運営スタッフのとりまとめ、現状顧問への現状調査及びヒアリング、特別教室実施における学校との調整・運営を行う。

取組の成果

- ・地域移行することに対し、各部活動単位で保護者説明会を実施することで、不安を解消できた。
- ・学校施設及び物品の使用等については、学校長および顧問と十分に協議を重ね、平日の部活動と同じように使用できるようになった。
- ・顧問と地域指導者、保護者との連絡体制を整備した。(情報共有)

3-2. 校内活動について

・校内で部活動を実施する場合、現在と同様に子どもは集合時間までに活動場所に集合してください。

・活動時間は、平日のルール含め、以下の通りです。

平日 1日50分×2セット＝100分 + 土日祝日 1日3時間まで = 11時間を超えてはならない。

※守山市立中学校のルール、2023年4月改定

・各部活動、指導者は1名もしくは2名体制で行います。

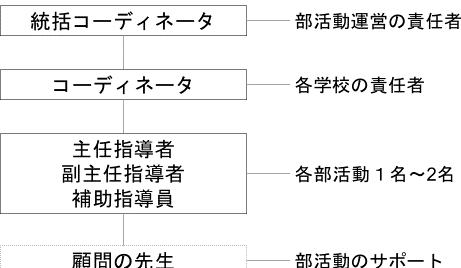
※移行期間中は顧問の先生も参加する場合があります。

・持ち物は水筒、タオル、各部活動に必要な道具となります。

・活動終了後は子どもが安全に帰宅できるように、指導者が指導を行います。

特に工夫した事項

- ・各部活動のスケジュールや出欠報告、アンケート等については、各クラブ活動専用Googleフォームを作成し、保護者との連絡をスムーズに行えるようにした。
- ・各学校にコーディネーターを配置し、休日のクラブ活動時に事前の出欠報告と当日の出欠状況を照合し、参加予定となっていて欠席の場合、現場から保護者への連絡が直ぐにできる体制や練習中のケガ等の対応等、保護者への連絡体制を整えた。



今後の課題と対応方針

- ・保護者間との連絡について、今後、地域移行する部活動においても同様に活用する予定である。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

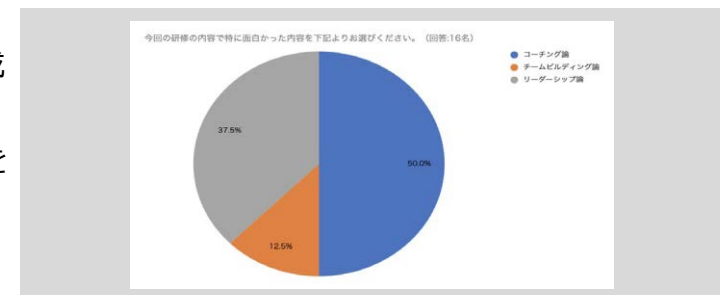
▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・指導者として最低限必要な知識と技能を習得し、安全で効果的な活動を行うことのできる指導者を養成する。
- ・指導者の人材募集サイトを作成し、募集する。応募があった指導者に対して、面談、研修を行い、適正な人材であることを審査する。
- ・指導者がスムーズに現場で指導できるように現行顧問との調整を行う。

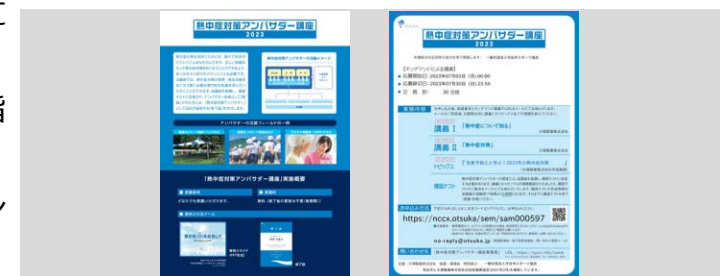
取組の成果

- ・指導者としての最低限の必要な知識と技能を取得してもらうために、指導者養成講習会を実施し、受講した参加者に対して修了証を発行し、アンケートを実施した。
- ・県スポーツ人材バンクを活用し、来年度以降に地域指導者として勤務できる方を確保した。



特に工夫した事項

- ・県スポーツ人材バンクの取り組みもあり、その制度を活用し、地域指導者の確保に努めた。
- ・地域指導者だけでなく、スポーツ少年団指導者や部活動指導員等を対象に、指導者養成講習会を実施した。
- ・夏場における活動に向けて、民間企業で実施している「熱中症対策講座（オンライン）」の受講を案内した。



今後の課題と対応方針

- ・引き続き、県人材バンクを活用し、指導者の確保に努める。
- ・民間スポーツクラブにも協力を仰ぎ、指導者の確保に努める。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ協会、スポーツ少年団、クラブチーム、民間事業者、文化協会など多様な実施主体が、社会体育・教育施設や文化施設を活用して、多様な活動に親しむ機会を確保する。

取組の成果

・新たな活動機会や体験機会の創出を行うために、ダンス教室、ソフトテニス講習会、硬式テニス体験会、ハンドボール講習会、サッカー講習会、卓球講習会を実施した。

今回の体験会で良かったと思う点を教えてください。

回答者一部抜粋	
学校より専門的に詳しく教わってよかった	
硬式テニスで教えてもらったコーチで安心して楽しくソフトテニスを学ぶ事ができました。中学校でソフトテニス部に入りたいためです。	
初めてのソフトテニスだったので、ラケットの持ち方や構え方や打ち方、硬式テニスとの違い等をコーチから丁寧に指導いただいたので、とても充実した講習会でした。また、講習会の時間延長だったので、ウォーミングアップから試合打ちまでいろいろなことを体験することができたので、とても満足しています。	
他校の先輩と打てた	
様々な中学生と練習ができて、刺激的だった。	
部活では教えてもらえないことを教えてもらえた。	
応用練習ができたこと、自分より上手な人と一緒に練習できたこと	
教えてくれるコーチも面白くて、テニスの楽しさを知れた	

特に工夫した事項

・ソフトテニス、硬式テニス体験会に関しては、民間スポーツクラブおよび指導者の協力を得て、開催することができた。
・サッカー講習会、ハンドボール講習会に関しては、クラブチームの選手やプロ選手が講師となって、実践的な動きなどを身近に体感することができた。

〈質問⑤〉
今後、継続してクラブやスクールとして運営をする場合、参加費を徴収しての運営が必要となりますが、有料でも参加したいと思いませんか？教えてください。

選択肢	回答数	割合
参加したい	17	54.8%
参加は難しい	3	9.7%
その他	11	35.5%

〈その他回答〉

回答者一部抜粋	
参加したいが、価格次第	
部活とその他の習い事の時間等をみて判断したい	
価格によっては参加したい	

今後の課題と対応方針

・現在、活動している運動部活動の体験会、講習会を実施したが、参加者や保護者から好評であったため、現在は市内参加者は無料としているが、有料化を視野に入れ、今後もクラブ化を目標に継続実施していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

指導者については守谷市内にこだわらず、県内、近県から確保ができるよう調整するとともに、県南西エリアの連携組織を生かし、情報共有を図っていく。
スポーツの体験会や講習会について、広域的に参加者を募る企画とした。

取組の成果

- ・県スポーツ人材バンクを活用し、来年度以降に地域指導者として指導できる方を確保した。
- ・有名選手やプロ選手を講師として開催したスハンドボールの体験会や講習会について、市外者の参加が多くあった。

報告 1：地域部活動進捗状況(2)－ハンドボール

【開催日】
2023年10月22日(日)・10月29日(日)・11月3日(金/祝)・12月3日(日)の4日間

【開催場所】
茨城県立守谷高等学校 体育館

【開催時間および参加人数】 17:30～19:00(県内)・19:00～20:45(県外) ※県外参加者は別途バスで移動し、県内参加者は徒歩で移動する。

日付	時間	対象者	参加者数(人)	県内参加者	県外参加者
10/22(日)	17:30～19:00	中学1年生～2年生(男女)	28人	24人	4人
	19:15～20:45	中学2年生～3年生(男女)	30人	26人	4人
10/29(日)	17:30～19:00	中学1年生～2年生(男女)	22人	20人	2人
	19:15～20:45	中学2年生～3年生(男女)	42人	38人	4人
11/3(金/祝)	17:30～19:00	中学1年生～2年生(男女)	19人	16人	3人
	19:15～20:45	中学2年生～3年生(男女)	28人	24人	4人
12/3(日)	17:30～19:00	中学1年生～2年生(男女)	17人	14人	3人
	19:15～20:45	中学2年生～3年生(男女)	30人	26人	4人

特に工夫した事項

- ・県スポーツ人材バンクの取り組みもあり、その制度を活用し、地域指導者の確保に努めた。
- ・スポーツの体験会や講習会について、市外参加者については有料とした。

報告 1：地域部活動進捗状況(4)－ハンドボール

【学校別参加者】※実数

学校名	10/22	10/29	11/3	12/3	合計
守谷市立けやき台中学校	3人	14人	6人	7人	30人
守谷市立朝霧ヶ丘中学校	6人	11人	8人	11人	36人
守谷市立豊田中学校	8人	10人	8人	7人	33人
つくば市立水戸中学校	13人	14人	13人	11人	51人
かすみがうら市立下郷中学校	1人	-	-	3人	4人
つくば市立東峰中学校	1人	1人	1人	1人	4人
常総市立水海道中学校	1人	1人	-	-	2人
水海道第一高等学校附属中学校	1人	3人	1人	1人	6人
常総市立水海道西中学校	-	3人	-	-	3人
坂東市立若井中学校	-	-	1人	1人	2人
さいたま市立田島中学校	-	-	1人	-	1人

今後の課題と対応方針

- ・引き続き、県人材バンクを活用し、指導者の確保に努める。
- ・民間スポーツクラブにも協力を仰ぎ、指導者の確保に努める。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、指導者や参加する生徒等に対して、自身の怪我等を補償する保険や個人賠償責任保険に加入するよう促す。（移行期間の令和5年度～令和7年度は運営主体で負担）

取組の成果

- ・地域移行期間中においては、活動参加費及び活動に係る傷害保険（スポーツ安全保険）については、運営主体で負担。
- ・練習試合や大会参加に係る遠征費（バス代等）は、受益者負担。

（7）活動にかかる費用負担の検討

ア 地域移行期における、休日の通常練習にかかる費用（指導者謝金等）、傷害保険料等は市の負担とする。ただし、練習試合等で発生する費用（交通費、相手への差入等）は実費負担となる。

※ 地域移行期後は、参加希望者のみの会員制として、会員には運営に要する経費の一部（会費・活動費）を負担していただくことが想定される。負担額については、国や県の支援（補助）などを踏まえながら検討する。

イ 地域クラブ活動に参加する場合の費用が、生徒が地域クラブ活動に参加することの妨げにならないよう、移行期に、経済的に困窮する家庭の生徒の参加費用の支援等に関する検討を進める。

ウ 地域クラブ活動の運営団体が、地元の企業等の協力を得て、企業等が有する施設の利用や設備・用具・楽器の寄附や貸与等の支援を受けられる体制の整備や、家庭の参加費用の負担軽減に資する取組を推進する。

※ 企業からの寄附等を活用した基金の創設や、企業版ふるさと納税の活用等も考えられる。

特に工夫した事項

・現在は学校部活動と並行して実施しているため、地域クラブ分において追加で受益者負担を求めることは難しく、参加費や保険料は実施主体が負担し、参加費等についてアンケート調査を実施している。また、競技用具等については学校の承諾を得て、学校部活動と共有させてもらっているため、生徒、保護者にとっては休日は学校部活動の延長のような感覚でストレスなく活動ができている。

《質問2》
有償化した場合、1レッスンあたりの参加しやすい金額を教えてください。（1レッスン＝60分）

運用額	回答数
500円 ～ 999円	2
1,000円 ～ 1,499円	13
1,500円 ～ 1,999円	6
2,000円 ～ 2,499円	2
2,500円 ～ 2,999円	0
3,000円 ～ 3,499円	3
3,500円以上	1
その他	4

スクールレッスンではなく、部活の費託となるのであれば、低料金でお願いしたいです。

今後の課題と対応方針

- ・移行期間においては、運営主体団体が費用負担することとしているが、移行期間終了後には、参加希望者のみの会員制として、会員には運営に要する経費を負担してもらうことが沿想定される。負担額については、国や県の支援（補助）などを検討する。
- ・自己負担になると、経済的に困窮する家庭の支援等の検討も必要となる。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

地域クラブ活動を行う団体等に対して、学校施設を優先して開放するなど、負担軽減や利用しやすい環境づくりを行う。

取組の成果

・通常の休日のクラブ活動の他、体験教室、講習会についても、学校体育施設を教育委員会を通じ、学校長に借用依頼を優先的に使用している。

議題2：アンケート集計結果から見る課題②

〈生徒のアンケート(生徒Q3)(生徒Q6)〉

・活動時間の少なさ

生徒からのアンケートより技術、楽しさの向上に続き「活動時間が少ない(休日だけでは足りない)」(26.4%) (生徒Q3回答)を課題に思っており、「活動時間が増えること」(生徒Q6回答)を期待している生徒が多かった。

【協議事項】

上記回答より、平日含め、活動時間を増やすために学校管理である時間帯の施設を有効活用したい。特に土曜日、日曜、祝日を希望。
〈現在部活動がお休みである木曜日の15時～18時の時間の施設利用を申請中〉

特に工夫した事項

- ・休日の学校体育施設は、他の部活動も活動している場合もあるため、近隣の高校の体育館や私立小学校の体育館を借用し開催した。
- ・平日の部活動休養日において、クラブ活動とは別に、生徒のニーズに合わせて新たな種目の体験会やトレーニングの講習会等の開催ができるよう、放課後の時間帯を借用が出来るように調整を行った。
- ・体験会、講習会は、自身の意思による自由参加を大前提としたこと。

議題2：アンケート集計結果から見る課題③

※協議事項の問題点

①参加したくない生徒もいる。保護者も同様。部活動に対する温度感の違いより、疎外感など感じることがないよう「自由参加」を前提に、時間を増やしたい生徒及び保護者の理解が最初に必要なとなる。

②部活動地域移行の中での部活動活動時間の創設については、「各種目、守谷市全体に平等な機会の創出」を前提としているが、中には守谷市内で他校をライバルとして見ているため、学校別かつ種目別による生徒の活動機会の創出を希望しているところが多い。このあたりの考え方の誤差をどう埋めていくのがポイントだと考えます。

今後の課題と対応方針

- ・現在、学校体育施設は、社会体育事業の一環で貸出しを行っているが、市民で構成されたスポーツサークル団体やスポーツ少年団が定期的に1週間フルに使用している状況である。
- ・今後は、スポーツサークル団体やスポーツ少年団の活動時間について、検討する必要がある。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

議題2：部活動活動管理表の説明

2023年

女子テニス部 活動計画表

7月

日	曜	活動内容	予 定 (注1)以上部内練習等を実施し、実施(注2)		実 績 (注3)以下(注4)練習等を実施し、実施(注5)				i s c活動希望			
			実施場所	備考欄	始期時刻	終期時刻	始期時刻	終期時刻	段外時間	実活動時間	希望時刻	備考
1	土	練習	テニスコート3面		12:30	15:00	12:30	15:00	0:30	3:00	13:00-15:00	山口
2	日	休み										
3	月	休み		委員会								
4	火	練習	テニスコート2面		15:45	18:00	15:45	18:00		1:15		
5	水	練習	テニスコート2面		15:00	17:15	15:00	17:15		2:15		
6	木	大会	その他：備考欄に記入	寺久運動公園テニスコート	7:00	16:45	7:00	16:45		9:45		
7	金	練習	テニスコート2面									
8	土	練習	テニスコート3面		12:30	15:00	12:30	15:00	0:30	3:00	13:00-15:00	山口
9	日	休み										
10	月	休み										
11	火	練習	テニスコート2面		15:45	16:45	15:45	16:45		1:00		
12	水	練習	テニスコート2面		15:00	16:45	15:00	16:45		1:45		
13	木	休み										
14	金	練習	テニスコート2面		15:00	16:45	15:00	16:45		1:45		
15	土	練習	テニスコート3面		12:30	15:00	12:30	15:00	0:30	3:00	13:00-15:00	山口
16	日	休み										
17	月	休み										
18	火	練習	テニスコート2面		15:45	16:45	15:45	16:45		1:00		
19	水	練習	テニスコート2面		15:00	16:45	15:00	16:45		1:45		
20	木	休み										

8

議題2：アンケート集計結果から見る課題②

〈生徒のアンケート(生徒Q3)(生徒Q6)〉

・活動時間の少なさ

生徒からのアンケートより技術、楽しさの向上に続き「活動時間が少ない(休日だけでは足りない)(26.4%)」(生徒Q3回答)を課題に思っており、「活動時間が増えること」(生徒Q6回答)を期待している生徒が多かった。

議題2：アンケート集計結果から見る課題④

〈保護者のアンケート(保護者Q5)(保護者Q7)〉

・保護者とのコミュニケーション不足

保護者からのアンケートより、「活動内容が耳にはいってこない」(保護者Q5回答)、「地域部活動が子供から楽しいとは聞いていますが、具体的にどのような内容なのかまでは、よくわかっておりません。どのような練習をしているか、活動をしているか、もっと知る機会があると、嬉しいです。」(保護者Q7回答)と回答があった。

【協議事項】

上記回答より、部活動において保護者が部活動を知る機会を増やす必要あり。今後どのように地域部活動を知ってもらう機会を増やせばよいか、検討が必要。(例えば部活動地域移行保護者見学会を開催する等)

議題2：アンケート集計結果から見る課題⑦

〈全体アンケートを通して〉

・コミュニケーション不足

アンケート結果より、全ての対象者(生徒、保護者、顧問、指導者)がコミュニケーションに不安を抱えている。

上記課題を解決するために、取り急ぎ以下の対応をした。

◇指導者用携帯電話の購入および使用

指導者が直接保護者と連絡できるように携帯電話を各指導者に持たせた。(2023年11月より各自携帯保有)

今後、緊急時対応も含めた連絡体制を構築したい。

下記のツールの導入を検討したい。

①Google Classroomの導入

各中学校で使用しているGoogle Classroomを i s c (同)のポータルサイトで作成導入(後項-議題5)し、休日の地域部活動用の連絡体制を構築する。

報告2：地域クラブ活動に関する意向調査(2)

下記より質問項目と集計結果(個人情報もあるため、氏名については非公開)

〈質問①〉

現在、休日は学校部活動から地域クラブ活動へ移行中です。

つきましては令和6年4月以降の学校部活動および地域クラブ活動へのあなたの考えに当てはまるものを下記より選択してください。選択肢にない場合はその他に記述してください。

選択肢	回答数	割合
地域クラブ活動のメイン指導者として加わりたい	17	15.2%
地域クラブ活動のサブおよび補助指導者として加わりたい	7	6.3%
平日の学校部活動のみ加わりたい	12	10.7%
地域クラブ活動の指導や活動現場には携わらず、お金の管理、大会申込、保護者連絡などの事務作業だけ加わりたい	1	0.9%
平日の学校部活動も含めて地域クラブにお願いしたい	52	46.4%
分からない	13	11.6%
その他	10	8.9%

※その他の回答の詳細については次ページより。

12

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



トップ選手を講師に招き、希望者を募って実施したハンドボール講習会



新たな種目の創出として実施したダンス体験教室



指導者研修の一環で実施した救命救急講習会



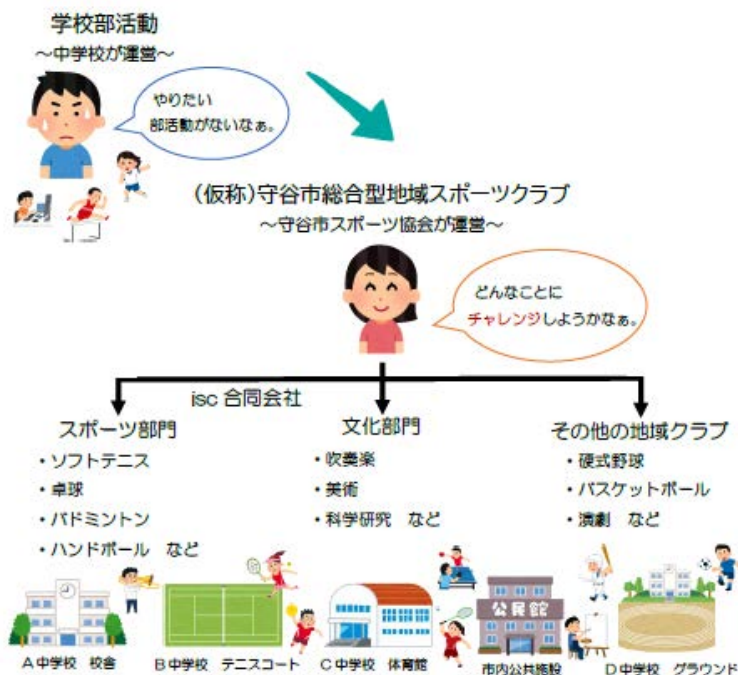
クラブチームの選手によるサッカー講習会

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 教育委員会や学校、地域スポーツ団体等を構成員として地域移行に関する検討・モデル事業をスタート。（愛宕中学校にて、男子卓球部、男子ソフトテニス部、吹奏楽部をモデルとして実施）
- 地域移行に伴う教員のかかわり方に関する意向調査を実施。（約2割の教員が兼職兼業希望）
- 生徒、保護者を対象としたニーズ調査を実施
- 地域移行推進プラン、活動ガイドラインの策定



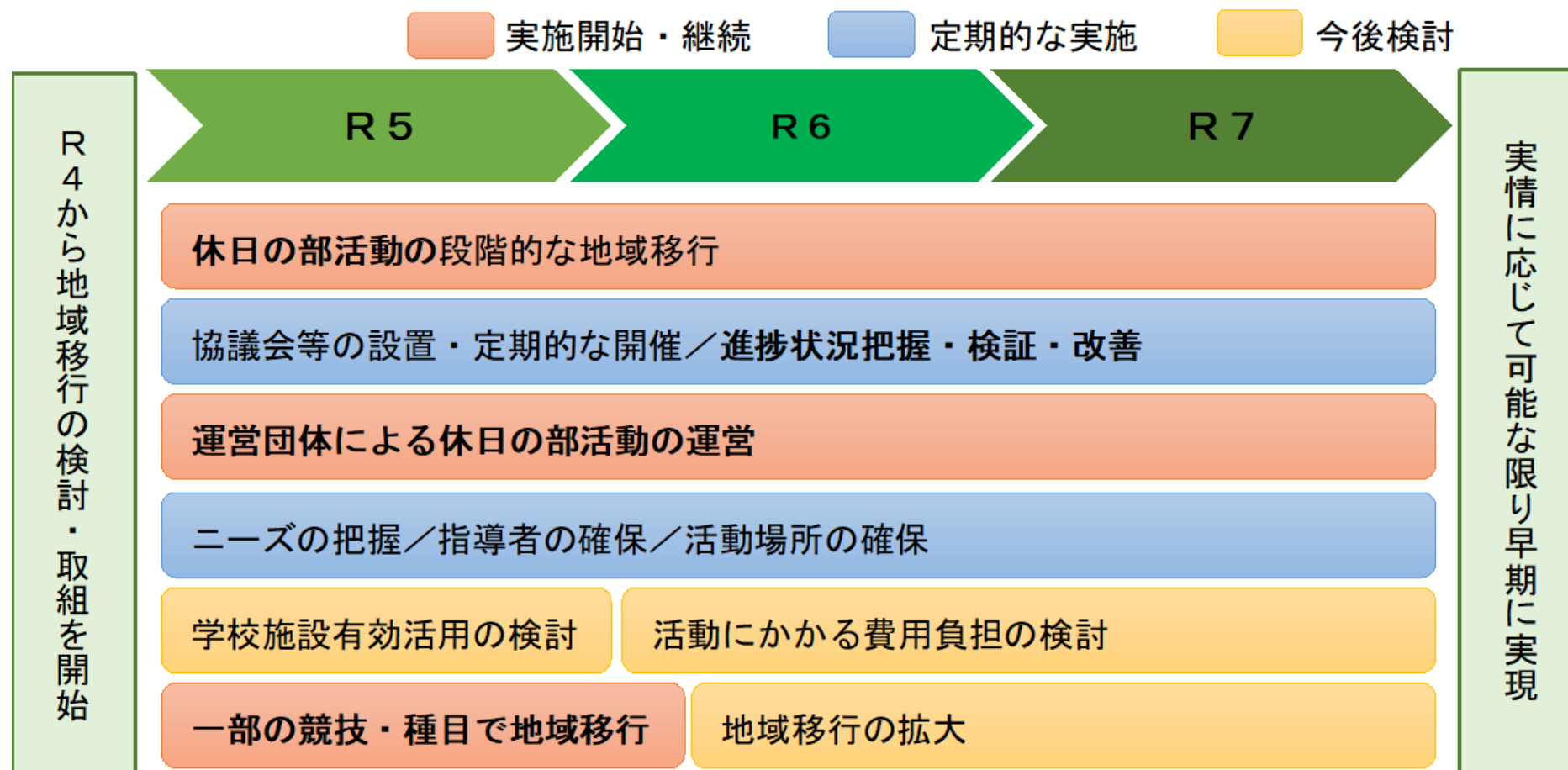
- 地域クラブ活動（休日の学校部活動への指導者配置）スタート
- ・R5年度12部活動 ・R6年度20部活動 ・R7年度30部活動程度を想定
- 教育委員会、各中学校長、PTA代表、守谷市スポーツ協会、守谷市文化協会、民間事業者を構成員として地域部活動運営協議会を設置し、具体的な運営内容について本格的に協議を開始。（年4回開催）
- 生徒、保護者を対象としたニーズ調査の結果等をもとに、新たな体験活動の創出として、新規種目を含む数種目の体験会、講習会を実施。
- （新）ダンス、硬式テニス
- （既存）ハンドボール、ソフトテニス、卓球、サッカー

- うまくいった点
 - ・新たな体験活動の創出として実施した、体験会、講習会が好評であったため、今後も種目を拡大しながら継続し、最終的にクラブ活動として実施できるように調整をしていく。
- うまくいかなかった点
 - ・学校教員の兼職兼業より先に地域指導者を優先的に配置し、休日部活動を地域クラブ活動としてスタートしていたところ、人事異動により休日もやる気のある学校顧問が配属となり、休日の現場で地域主導で行うことが困難となり、休日の運営を一旦地域主導から学校主導に返すことになった部活動があった。
- 今後実施していくこと
 - ・学校部活動と完全に切り離して受益者負担とした場合のクラブ運営の支援に関すること
 - ・生活困窮世帯への支援に関すること

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

守谷市・守谷市教育委員会 部活動地域移行スケジュール



【茨城県つくばみらい市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	茨城県つくばみらい市
担当課名	教育指導課
電話番号	0297-58-2111

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	53,177人	部活動数	37部活
公立中学校数	4校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	4,975人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

つくばみらい市には4つの中学校があり、その内2つの中学校は、生徒数が増加している。一方で、2つの中学校は生徒数が緩やかに減少しており、2極化が見られる。人口が増加している地区では、新設中学校の建設が予定されており、新設中学校における部活動のあり方についても検討する必要がある。

令和5年度の運動部活動の現状としては、市内で45の部活動があり、その内、運動部活動は37部活である。

令和5年度の運動部活動の現状としては、市内の野球部で、4中学校のうち、3校で単独のチームを編成することができず、合同チームで大会に参加する形をとった。種目によって、部員数にも違いがあり、今後、部活動の種目の減少を検討する学校もある。

中学生を対象に「今後やってみたい種目は何か」と、アンケートをとったところ、既存の部活動の他、ダンスや写真、将棋等の新たな種目に対する興味が高いことが把握できた。こうした子供たちのニーズに応えるためにも、学校単位でなく、地域で支援、活動できる体制を整えてあげることが大切である。今後は、様々な団体と連携を図る中で、地域で、子供たちの部活動を支える体制を検討していく必要がある。

本市の部活動加入者数

(主な部活動加入率)(人)(%)

バスケットボール部 109 (14.9%)

卓球部 108 (14.7%)

ソフトテニス部 103 (14%)

吹奏楽部 87 (11.9%)

バドミントン部 81 (11%)

サッカー部 73 (9.9%)

美術部 55 (7.5%)

バレーボール部 46 (6.3%)

野球部 42 (5.7%)

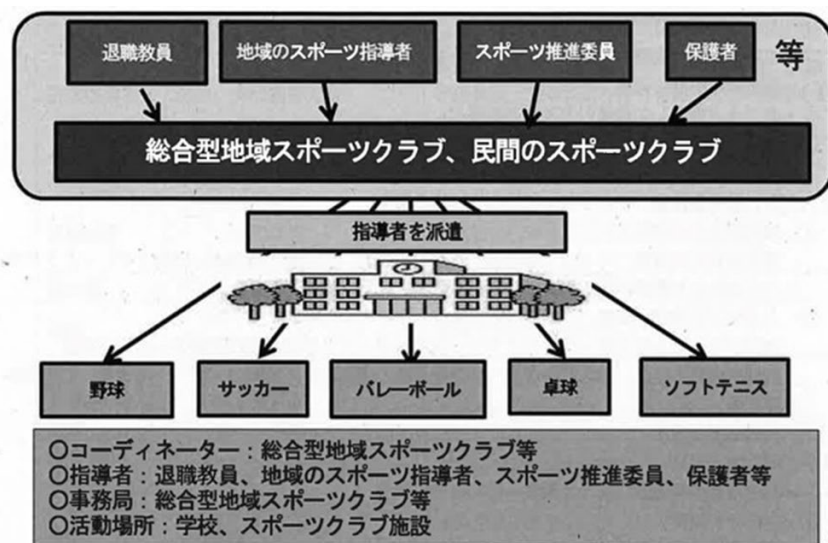
剣道部 24 (3.3%)

R4.12月アンケート調べ
(対象:市内中学1、2年生)

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼検討している運営体制図のイメージ



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（教育指導課、生涯学習課スポーツ推進室）
（教育指導課）
学校部活動の現状を把握し、休日の部活動の地域移行に向けた案を作成する。
地域の人材を発掘し、休日の部活動の任せられる指導者の確保（生涯学習課スポーツ推進室）
地域のスポーツ少年団等との連絡調整
部活動を地域移行した際の活動場所等の確保
- **首長部局**（財政課）
部活動指導員、部活動の地域移行に向けた費用面での支援

年間の事業スケジュール

年に4回の部活動改革部会を実施

- ・第1回部活動改革部会
日時：令和5年6月28日（水）14：00から16：30
- ・第2回部活動改革部会
日時：令和5年9月25日（月）14：30から16：30
- ・第3回部活動改革部会
日時：令和5年11月28日（火）14：30から16：30
- ・第4回部活動改革部会
日時：令和6年2月26日（月）14：30から16：30

- アンケートの実施
時期：令和4年12月
対象：市内中学生（中1、2年）、中学生保護者（中1、2年）
市内中学校教職員
検証：中学生、保護者、教職員の意識調査
- 部活動指導者講演会「これからの運動部活動のあり方」
時期：令和5年8月9日（水）
対象：市内教職員、部活動指導員、部活動外部指導者
地域のスポーツクラブ関係者
講師：早稲田大学 中澤教授

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・つくばみらい市部活動改革部会を実施
 構成委員：つくばみらい市教育委員会教育指導課、つくばみらい市教育委員会生涯学習課スポーツ推進室
 市中体連会長、市内各中学校の部活動主任、
 総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブみらい」クラブマネージャー

取組の成果

- ・「休日の部活動の地域移行のあり方」アンケートの結果から、生徒、保護者、教職員の意識を分析、検証することができた。
- ・生徒のニーズに応えるためには、新たな指導者の確保が必要であり、また活動場所についても検討が必要なが確認できた。
- ・学校ごとに「部活動の地域移行」をするのではなく、地域が一体となって面倒を見る地域移行のあり方を進めていくことを確認した。
- ・まずは、種目を絞って、できる競技から地域移行の試行を進めることとした。

【次ページよりアンケート結果】

- ・現在、所属している部活動以外で、どのような活動をしてみたいと思いますか。（P.5）
- ・どんな活動、指導を受けたいですか。（P.6）
- ・どんな部活動なら、所属したいと思いますか。（記述式）（P.7）

※令和4年12月実施「休日の部活動の地域移行のあり方」より

特に工夫した事項

- 地域移行のあり方を検討すると同時に、教職員の働き方改革を進めた。
- 【みらい型部活動改革の実施】
- ・令和5年度より、市内の全中学校の授業時数を変更し、週2日の5時間授業日を設定した。
- ・5時間授業の日は、放課後の部活動を2時間実施できるようにし、活動の時間を確保した。
- ・生徒の下校時刻を毎日16：30（通年）とすることで、勤務時間内に部活動を終了することができ、教職員の働き方改革につなげた。（冬季は下校時刻を16：20とした。）

- 「みらい型カリキュラムマネジメント」に関する満足度
- ・中学校の教職員の意識調査（P.8）
- 「みらい型部活動改革」の満足度は高いが、一部活動時間が減ったように感じている生徒、教職員がいる。

※教務主任向けアンケート（令和6年1月実施）

今後の課題と対応方針

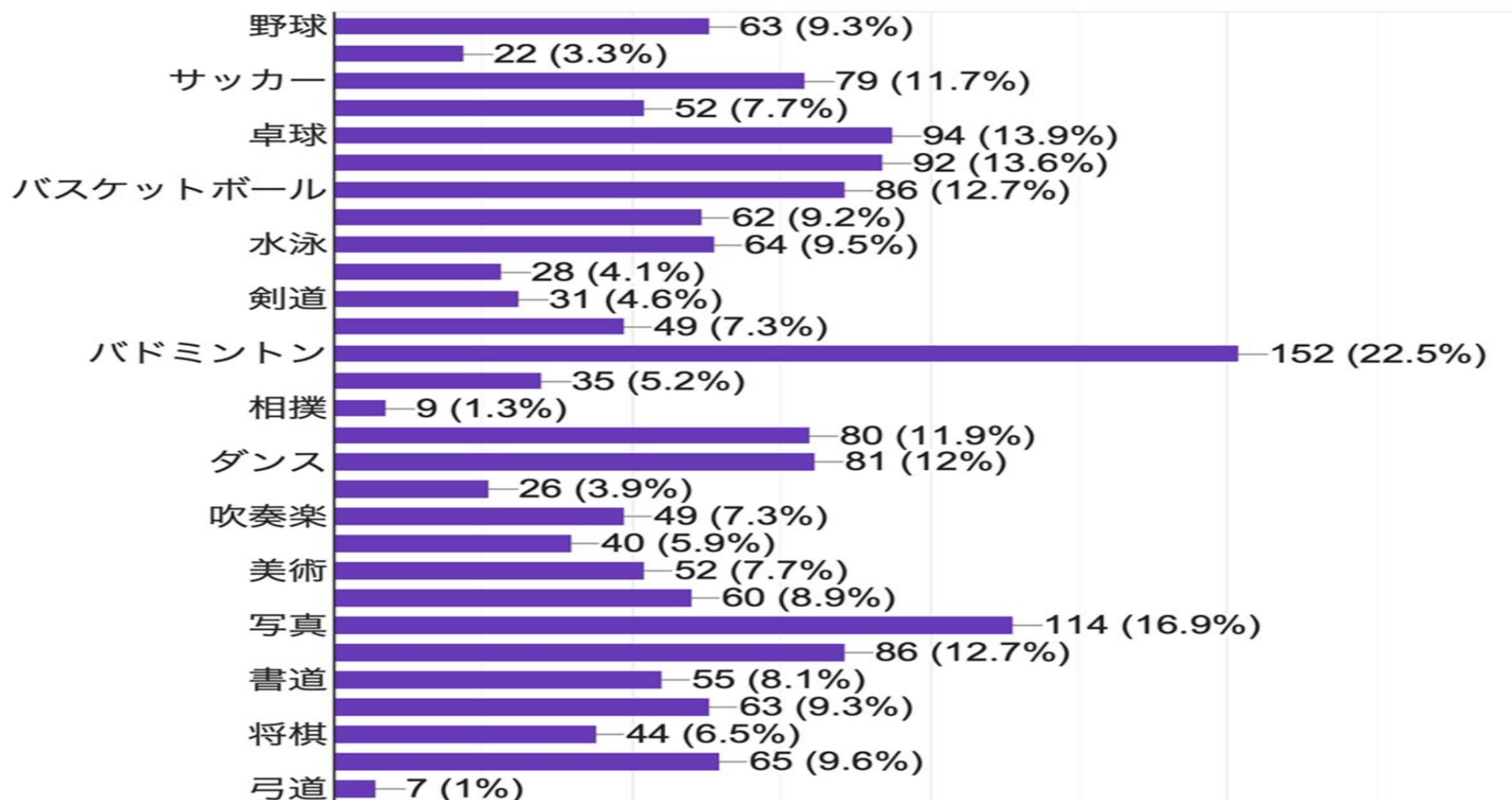
- ・地域部活動の指導者の確保
- ・兼職兼業を希望する教職員の把握
- ・活動場所の確保

2. 実証内容と成果

参考資料（生徒向けアンケート結果等 令和4年12月実施）

現在、所属している部活動以外で、どのような活動をしてみたいと思いますか。

（899'件の回答）

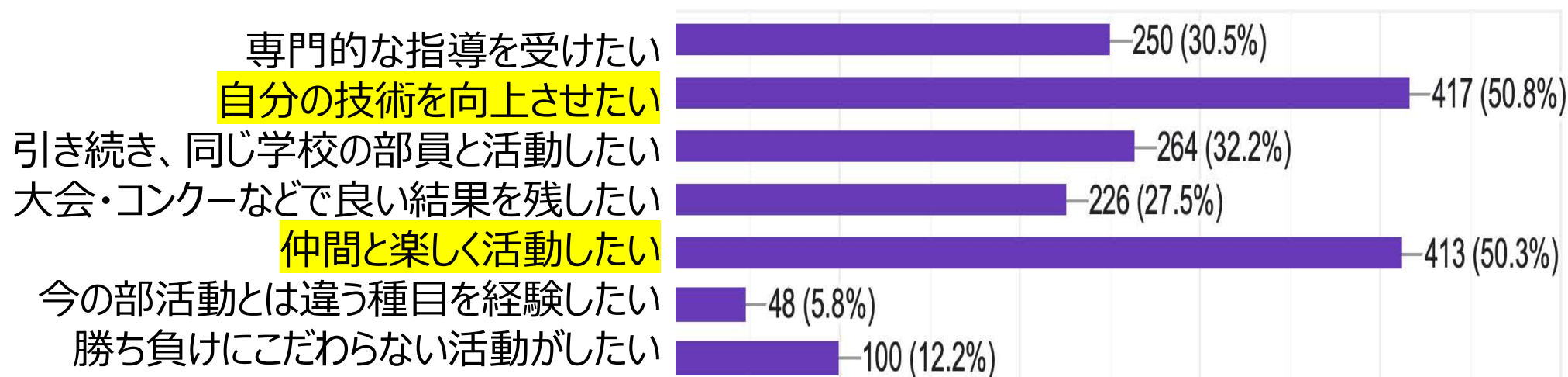


2. 実証内容と成果

参考資料（生徒向けアンケート結果等 令和4年12月実施）

学校部活動が地域部活動（教職員以外の指導者が指導する）の運営になった場合、どんな活動、指導を受けたいですか。

821 件の回答



2. 実証内容と成果

参考資料（生徒向けアンケート結果等 令和4年12月実施）

どんな部活動なら、所属したいと思いますか。（記述式）

（例）良い成績を目指すために、どんどん練習したい。楽しく活動したい。など

（82 件の回答）

楽しく活動したい 楽しい 楽しく活動する バドミントン 帰宅部 演劇部 活動時間が短い
強くなるために練習する 楽しく 学年関係無しにコミュニケーション取れる部活。 文化部を増やしてほしい みんなでやる 勉強や自習が出来る部活ならやる。 いじめなどが起こらない。 料理部、漫画研究部 自分の好きなスポーツの部活 科学部 学力向上のため 玉拾い部 球技の方々の練習時間を少しでも増やしたいから 玉拾いで水泳 部活動には所属せず、自分のペースに合ったクラブチームや活動をしたい。 質の高い練習 化学系 好きなことを部活にしたい。 硬式野球 陸上部
習い事の用事とかで休んでしまうことが多くても入れて、みんなと平等に接してくれる部活動
楽しく出来る部活 部員の仲が良い 友達と仲良くやりたい 学校や市陸、県南などの長距離走で1位を目指す部活(陸上部) 実力を問わず楽しくできる部活 やる時はやるけど、楽しむ時は楽しむ。
たのしい部活 ばれー テニス部 チーム全体で協力できる 仮眠部 探偵部 楽しく活動したい。
みんな仲良い クラブチームより強いバスケ部 武道 演劇 楽しくゆるくある程度厳しく たのしくできる バスケ、テニス 良い成績を目指すために 楽しく活動
顧問の良し悪しで変わるとおもいますその顧問の雰囲気部活の雰囲気も変わるからです
コンピューターなどデスクでできる部活動 クラブチームに入っているのをそのことを考えてくれるチーム スクラッチ部 部活動もクラブチームもできているので特に不満はない。 高校などにあるような、語学を学ぶ部活動
楽しくしたい 歌を歌う部活 時間が短い部活 運動部
自分の趣味に合った部活動が欲しい。文化部の種類が異常に少ない。生徒が少ない為、種類が少ないのは当然だろうが、だったら学区の見直しをして伊奈中学校へ通学している生徒を伊奈東中学校へ通学するように生徒数の均等化を図るべき 雰囲気が悪くない部活 科学部 イラスト部 楽しく活 できる部活 楽しい部活動 文章を書いて見せあったりする。

2. 実証内容と成果

参考資料（教務主任向けアンケート結果等 自由記述 令和6年12月実施）

「みらい型部活動改革」の成果や課題について感じることを書いてください。

（13名の回答よりまとめ）

（成果）

- ・先生たちから好評で大改革だったと思う。
- ・下校時刻が同じ日が多く、生活スタイルが確立されている生徒が多かった。
- ・大変働きやすいと多くの職員が感じている。
- ・職員の勤務時間が大幅に削減されました。ありがたい限りです。
- ・勤務時間の削減になった。
- ・部活動に熱心な先生も含めて納得感を持って取り組んでいる。
- ・退勤時間についても確実に早くなっている。

（課題）

- ・新人戦、総体時のみ、活動時間が少し足りないと思った。
- ・活動時間が減ったように感じている生徒、職員がいる。
- ・一部の部活をしたい先生への対応
- ・特にありません

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・市外中学校での部活動に関わるすべての指導者を対象に「これからの運動部活動のあり方」講演会を実施し、部活動の地域移行のあり方について共有した。（令和5年8月 講師：早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 中澤篤史）
- ・総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブみらい」との協議

取組の成果

- ・市内の教職員に対して、部活動の地域移行についての方向性を伝えることができた。
- ・「スポーツクラブみらい」と学校との情報共有のあり方と強化していく必要性がある。
- ・指導者の確保と教員の兼職兼業の必要性の共有
- ・課題が山積みである。まずは地域移行の試行が必要である。

部活動指導者研修会の参加者アンケートより
・研修会の内容の満足度（P10）
・参加者の感想（自由記述）（P11、12、13）
（まとめ）
・地域移行を早く進めてほしい。
・部活動をしたい教員の気持ちの尊重してほしい。
・受益者負担の金額等の検討がさらに必要である。
・地域で見守っていく体制の構築してほしい。

特に工夫した事項

- ・夏期休業中に部活動指導者研修会「これからの運動部会のあり方」の実施
- ・市内の部活動に関わるすべての関係者を対象に対し、部活動の地域移行の必要性について共有することができた。
- ・つくばみらい市ならではの地域移行のあり方を検討する必要性があることで一致した。

今後の課題と対応方針

- ・教職員に対する「部活動の地域移行」に関する情報の提供
- ・兼職兼業を希望する教職員の把握等
- ・「スポーツクラブみらい」と学校との連絡体制に強化

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果等）

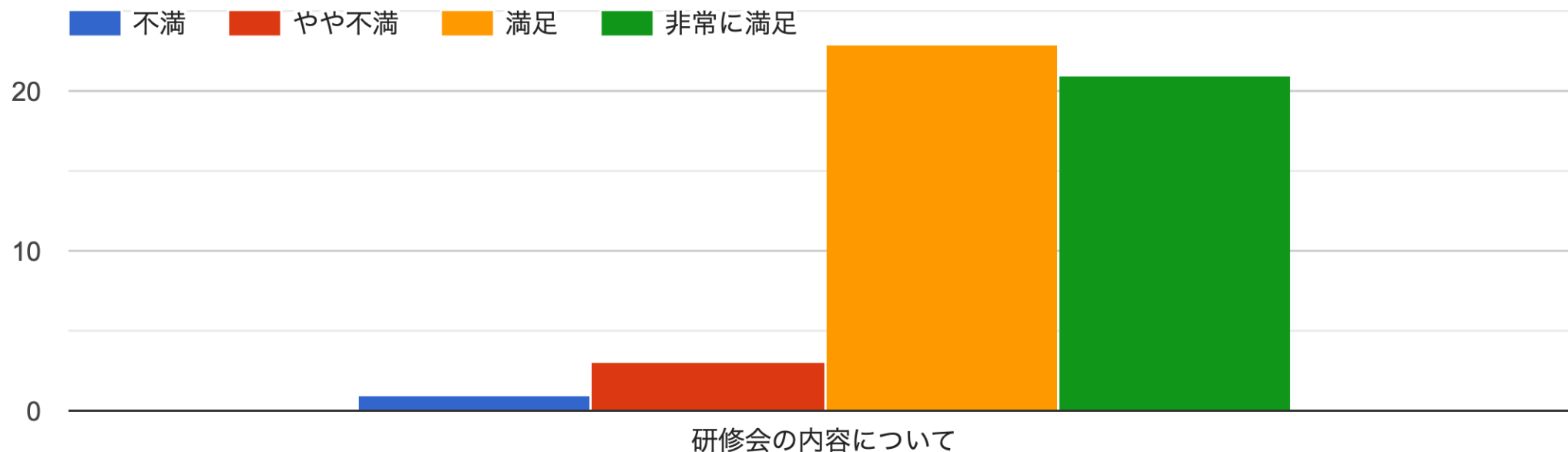
令和5年度部活動指導者研修会

日時：令和5年8月9日（水）午後1：30から4：30

会場：つくばみらい市 きらくやま世代ふれあい館

対象：各小中学校校長または副校長、教頭、部活動担当者、部活動指導員、外部指導者
地域スポーツクラブ関係者

参加人数：67名



【本日の研修会の内容について、どのように感じましたか】

2. 実証内容と成果

参考資料（部活動指導者研修会アンケート結果 自由記述等）

部活の地域移行に向けて早急な対応が必要であると感じました。さらなる地域移行の詳細の具体がもっと知りたいと思いました。'中澤先生、具体的な情報や方向性を示していただきありがとうございました。

移行のスピード感や指導者の質等で、地域格差が心配です。

大変参考になりました。とても興味深い内容でした。'地域移行するのはありがたいのですが'色々細かい(大会運営など)こととかどうなるんだろうという気持ちがあります。'また土日一部活がない生活をどうすればいいのだろうという気持ちもあります。

信頼できる外部指導者の方が必要。そのために金銭面の検討や研修の在り方などを工夫することが必要だと思います。

これからの地域移行が気になるが、部活はやりたい。

本日の講演を聞き、これからの部活動のあり方について、しっかりと考えなければいけないと思いました。生徒の声を聞きながら、教員として大切にしたいとことのバランスを考えて指導していきたいと思います。

地域移行によって、働き方改革につながる先生たちは存在すると思いますが、それ以上に問題が起きたり、部活をやりたい先生たちのやりがいや損なわれたりと思う。

予算や人材確保が一番の課題だと考えます。やっぱり教員にお願いするしかない、とまらない事を願っています。

この取り組みに対する予算を拡充させ、信用できる人材の確保、十分な活動箇所の設置、保護者の理解を得ることが最優先だと思う。何もかもが中途半端で、これまでと変わらない規模で新しいことを実施しているので、教員の負担軽減には全く繋がっていないように感じる。

部活動指導を希望しない教員が指導しなくてもよいという状況を作って欲しい。私は絶対に部活指導をしたくない。

地域移行または学校以外で管理するのがベスト'3'持続可能性重視'4'地域の雇用の創出'5'教職員の確保'の順で'そのために'3'、222億円の有効活用'4'時間的余裕の確保'が大切'4'は、すぐに地域の指導者は現れないが、32年過ぎればそれを目指す人、それを支えるシステムができる。'効果がないとすぐに廃止しないことが大切'

地域移行に向けて、市のスポーツ推進室が主体となり移行を進めていただけたらと思いました。また、今日の講演の中で中澤先生が仰っていたように、地域移行と並行して部活動のダウンサイジングなどの改革を進めていくことが大切だと思います。

兼職兼業を推進したい。'生徒の自主的意思と教員の意思決定両方大切にしたいです。

平日、休日の活動を地域移行していく中で、大会運営等も地域移行していきたいです。

地域移行をする上で課題となるのは指導者の人材を確保することだと思います。人材を確保するためにはそれ相応の対価が支払わなければならないと思います。しかし、現時点で教員の部活動指導に対して相応の対価は支払われていません。この現状で地域人材を確保できるとは思えません。そもそも、部活動指導に対して適切な報酬が支払われるのならば、部活動指導に対する負担が減るのに と個人的に思います。

地域移行にできたらと思うが、やはり指導者の確保が難しいなと感じています。色々な面でクリアできて、生徒も教員も納得する部活動にしていきたいと思いました。

地域移行として、部活動指導員を起用しても、平日は教員の指導が必要となっています。現在では部活動指導をするにあたっての、自己研鑽の時間が十分に取れていません。クレーム等につながり、部活動指導を苦痛だと感じてしまうことがあります。教員も苦痛を感じず、働きがいを感じながら部活動指導を行うためには、業務の軽減や人員の増加が必要だと感じています。

本日の講演を聞いて、部活動の地域移行には本当にたくさんの課題があることが、改めて分かりました。子供を中心に据えた話し合いが進められることを願います。

部活を含む残業代の金額が言われていましたが、地域移行すれば生徒は地域のクラブなりなんなりに支払うお金が発生すると思います。新しい負担になり、部活動に参加出来なくなることはありませんか。また、その金額を地域(行政)が負担するならば、その予算を教員に手当として出すようなことは行われないのでしょうか。公務員には色々縛りがあるのならば、例えば市の大会で外部から審判を要請したときは謝金が出ますが資格を持っている教員には出ません、そんなちょっとしたことを変えることは出来ないのかなど。労働条件などがからんでくると厳密に扱わなければならないのかなど。教員は元々生徒の為に部活やっていたところも大きいので、話が大きくなり過ぎている気がして。取り止めがなくてすみません。"

2. 実証内容と成果

参考資料（部活動指導者研修会アンケート結果 自由記述等）

部活動に対する専門性がない教員が人材不足によって顧問をやむを得ずやっている状況もある。子どもたちのためにも、その部活動の専門性のある地域人材を有効活用するべきであると考えます。

部活動に参加する生徒は、部費を市内で統一した金額を払い、顧問の手当ての補助とする。顧問の成り手確保につながると考える。

本日はありがとうございました。地域移行に賛成です。が、いろいろな考えをもつ保護者が多いので、その折り合いをつけるのが大変だと思います。なるべく早い移行ができるよう、よろしくお願いします。

先生への対価が支払われることが必要だと思います。地域移行ありきではなく、それ以外の方法も視野にいれ、実情にあった改革が行われてほしい。

地域移行は賛成である。しかし、たくさんの課題があるのも事実である。その1つとして、地域で子どもたちを育てるという意識が必要だと思う。その意識を社会全体でもてるように進めなければいけない。そのために、今学校ができることについて、考えたい。

人材確保、生徒対応、練習時間の問題など課題は山積しているが、部活をやりたい子どもが平等にやれる環境の整備が必要だと思った。

今まで長年部活動に携わってきたが、正直、家庭は母子家庭状態だった。家内は、かつて自分も部活動で顧問に世話になったので、恩返しと我慢してくれていたが、子供らが自立した今、振り返って大変だったと話している。生徒のためと言われて頑張ってきたが、休日の部活動の地域移行が進み、家庭の時間の確保、休養の確保ができることは、これからの学校を担う教師にとって大事なことだと思います。地域での受け皿を確保する事は、様々な要素が絡み難しい問題だと思いますが、ぜひ実現してほしいと思います。

完全実施までに段階をふんで進めていくべきだと考えます

地域移行を確実に進めるためには、ロードマップやそれに対する予算、人的配置、保護者や児童生徒の理解が必要ではないかと思います。また、地域移行には、生活困窮家庭への支援、勉強は今一だが運動大好きな子どもたちを取り残さない事も大切かと思われます。

教員の働き方改革の視点で考えると、地域移行は助かります。また、競技経験のない教員が運動部の顧問をもつ現状を踏まえると、生徒にとってもより専門的な指導を受けることができ、技術力の向上も見込めると思います。が、どの競技もすべて部活動指導員が見つかるのか疑問が残ります。学校部活動も過渡期にきていますが、教員、生徒、家庭のことをそれぞれ考えると難しい問題だと感じています。この度はこのような研修会の機会をいただき、ありがとうございました。

3-10でも書いてあるが、教師の時間外労働は原則禁止であるなら、新人戦だ総体だの大会で集合開始時刻などが7時などに設定されている資料をつくばみらい市教育委員会等の名前を使って要項を出している矛盾についてどう考えているのか。また3-19で基本的に学校外が担うべき業務を市教委やスポーツ推進室は学校に丸投げしている現状(地域移行に関するクラブ探し、スポーツ推進室主催の大会運営を教員がやらされる)では地域移行は進まないように感じる。実際、最後の質問の時間には、部活を生き甲斐とする教員と部活を外部に任せたい教員との温度差を改めて感じる時間となった。学校主体で移行は完全に不可能であり、市教委や県教委などのまとめる組織が良いリーダーシップをもって強く方針を出してくれないことには地域移行は10年20年経っても進まないまま終わるだろうと諦めている。

貴重な時間をありがとうございました。従来行われてきた世界でも例がないような日本の部活動への取り組みが、中学生の健全育成に大きな効果をもたらしていたことは私も個人も明らかな事実と感じていますが、それが勤務時間外に教員を働かせる理由にならないことも同時に当然のことと強く感じています。これだけ時間外勤務が問題視されている今もなお、どうしても現場では「休日練習をあまり入れてくれない先生はやる気のない先生」といった空気を生んでしまうことが、生徒間でも、保護者間でも、職員間でも珍しくないことで、これらの周囲からの圧力によって、私たち教員が「部活動は教員の自主的な活動」という本来の解釈をする余地は実際のところほとんどないと感じています。また、仮に部活動がほぼ完全に「地域移行」され、「希望する教員は兼業できる」ようなシステムが確立したとしても、これまでのコミュニティー、繋がり(保護者・同僚)の存在を意識してしまうが故に、兼業の「断りづらさ」のようなものは依然として残り、判断に迷う、戸惑う教員は一定数出てきてしまうと思います。困難が多い中で、これだけ私たち教員のために日々尽力されている方々には感謝しかありません。未来の教員、生徒たちのために、引き続きよろしくお願いします。

まだまだ難しい課題だと思いますが、生徒にとって何がよいのか、考えてその時の最善が出来ればと思います。

今回の研修を通して、生徒・保護者・教員・地域、それぞれに立場や考え方に差があるので、全員が全て納得しながら進めて行くのは難しい事案であることを改めて感じました。だからこそ、それぞれのバランスを考えたり、妥協点を見つけていくことの大切さも感じました。

2. 実証内容と成果

参考資料（部活動指導者研修会アンケート結果 自由記述等）

中澤先生のお話は、根拠をもとに分かりやすく、大変参考になりました。ありがとうございました。小絹中は、部活動指導員が5名おり、そのうち1名の方は平日も休日も活動していただいています。ただ、この方のように平日もという難しいかもしれませんが、休日だけであれば地域の方で指導してくださる方がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。特に卒業生であれば、母校のために、或いは、つくばみらい市のために尽力していただけるのではないのでしょうか。卒業生でなくとも、スポーツを続けている方で、その楽しさや技術を子供達に伝えたいと思って動いてくださる方はいると思います。まずは、財源の確保とともに、広報活動（地域の人財をいかに発掘するか）にかかっていると思います。たくさんの希望者が出てくださることを期待しています。一方、部活動がやりたくて中学校の教員になったという先生方も本校には結構おります。兼業、兼職の制度を整えて、部活の好きな先生にはやりがいを持って部活に励んでもらえたらと思います。ただ、心配な点は、土日を別組織とすることで、活動時間が増加することが予想されます。それにとまって、①活動時間の増加による生徒への負担と、②先生方の実質の勤務時間が増えることによる健康被害等が、考えられます。特に②については「合わせれば80時間越え」はなきにしもあらずです。何事もなければ良いのですが、本人が好きでやっていることであっても、何かあった時、特に学校で倒れたとなったとき等の責任の所在はどうなるのでしょうか？非常に微妙な問題です。他にも、顧問と外部指導者との指導方法の違いにより生徒が困惑することや生徒指導のしにくさ（早期解決に動きにくい）、保護者の学校への信頼関係がどう変わるかと言った問題もはらんでいます。そのための連絡調整のための時間をどう確保していくかということも大切です。傷害保険等も活動場面によって変えなくてはならないのではないかと思います。慎重に進めていかないと、働き方改革のための部活動地域移行が、子供も大人も疲弊したということになりかねない気がします。誰にとってもウェルビーイングな学校となるように視野を広く持って考えていければと思います。今後、どうしていくかの話は、話し合うメンバーをもう一度吟味して、様々な角度から行ったほうが良いと思います。というか、どのメンバーで、話し合いがどこまで進んでいるのかもよく分からない状況で申し上げており、申し訳ありません。子供、保護者、教員、地域の方々等、みんなのためにより良い部活動となるようによろしくお願いいたします。長々とすみませんでした。研修会、大変お世話になりました。ありがとうございました。

地域移行につきましては、保護者や生徒の気持ちを大切にしていきながら、進めていけたらと思っています。

休日の部活動の担い手をどうするか。なるべく早く方針を考える必要があると思います。また、特に文化部に関しては、教員の兼職兼業によらざるを得ないと思います。この点での制度設計と財源に関しても、早く検討すべきだと思います。現在の市の検討体制で、文化部がどの程度考慮されているか、不安です。

成功事例や失敗事例をもう少し聞いて検討したい。

部活動ごとに、どこが、どのくらいのキャパシティで受け入れてくれるのか、どのような内容で受け入れてくれるのかを調査し、話し合いをしていくことが必要だと考えています。半年先、1年先、2年先と計画を立てて進めていく必要もあると思います。

部活の練習を楽しむって大切だと思いました。私たちの時は、辛いものを負けずにどうやって乗り越えるか考えましたが、辛いものを楽しむための方法が人生に繋がると考えました。

部活動の地域移行は困難な課題も多くあると思いますが、一歩ずつ進めていかなければならない問題であると思います。

丁寧な資料とわかりやすい説明ありがとうございました。今までの考えを改めて、新しい受け皿での持続可能な仕組みづくりは、時間がかかるように感じました。しっかりと話し合いの場をもつことが大切だと思いました。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・令和4年12月に「休日の部活動の地域移行に向けて」のアンケートを実施した。保護者向けアンケートの質問項目に参加費用負担額についての質問を設け、保護者の意識調査等を実施した。
- ・休日の部活動の地域移行に向けた研修会等で、他自治体等の取り組みを参考に、受益者負担額の検討を行った。

取組の成果

- ・343人を対象としたアンケートの結果、回答者の70%が休日の部活動を学校部活動から地域の指導者による指導へと移行するという改革について賛成または、どちらかという賛成と回答した。
- ・これまで学校の先生が指導することで得られていた安心感が、地域指導者になったことで、どうなるのか不安であるという回答も見られる。
- ・指導者の質の確保が課題である。
- ・受益者負担額については、さらなる研究が必要である。

保護者向けアンケートの実施 (令和4年12月)

- ・保護者の地域移行に対する考え方
概ね賛成(約70%) (P15)
- ・月毎に支払っている費用負担額の調査 (P16)
約60%の家庭が1000円以下であった。
約20%の家庭が5000円以下であった。

特に工夫した事項

- ・次年度の受益者負担額を市費負担とした。
- ・次年度以降(R6からR7)については、休日の部活動の地域移行に当たる。この期間は地域移行に係る受益者負担額(講師謝礼金、生徒保険金)を市費負担を検討している。

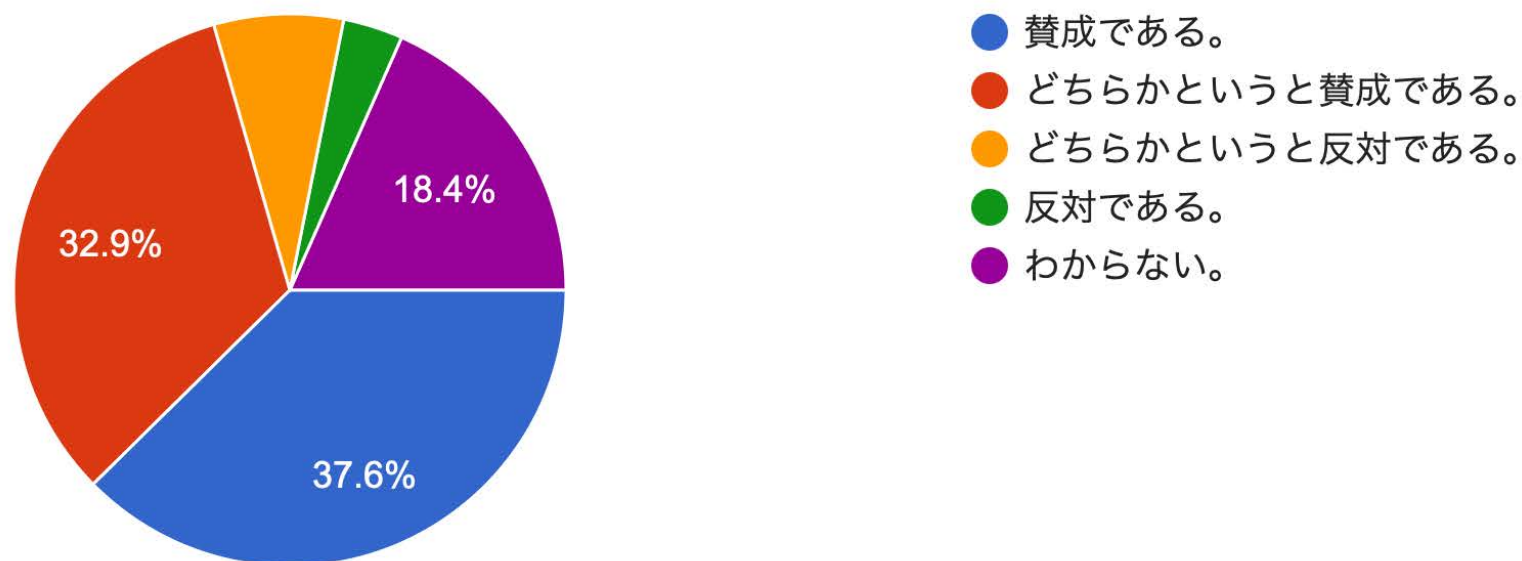
今後の課題と対応方針

- ・次年度は、受益者負担分を市費負担としたが、今後の受益者負担額については、検討が必要である。
- ・持続可能な部活動にするために必要な経費の試算
- ・地域部活動の運営母体である「スポーツクラブみらい」の組織の強化

2. 実証内容と成果

参考資料（保護者向けアンケート結果等）

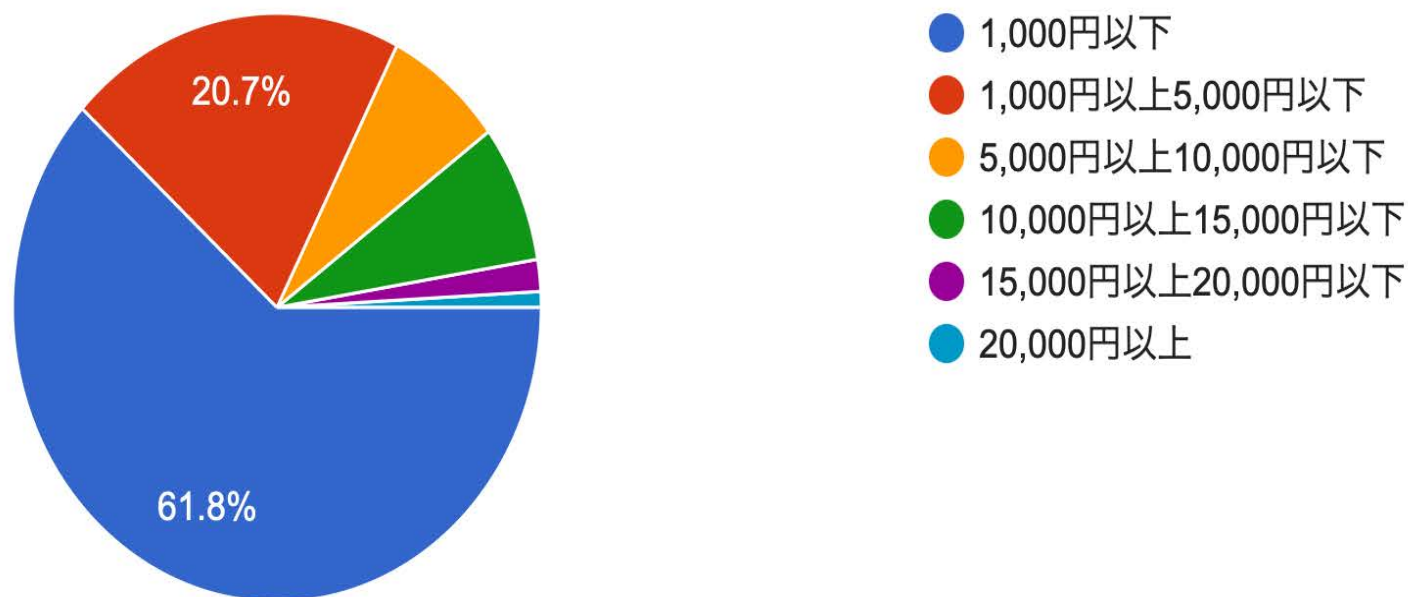
これまでの部活動は、学校の教職員により運営されてきましたが、このことが教職員の負担となっている現状があります。そこで、国は令和7年度から段階的に休日の部活動を学校部活動から地域の指導者による活動へ行こうと改革の方向性を示しています。このことについて、次のうち、保護者の皆様の考えに近いものを選んで下さい。（回答343名）



2. 実証内容と成果

参考資料（保護者向けアンケート結果等）

現在所属している学校部活動や地域クラブで、月ごとに支払っている費用負担額を以下から選んで下さい。（回答343名）



2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【部活動改革部会の様子】

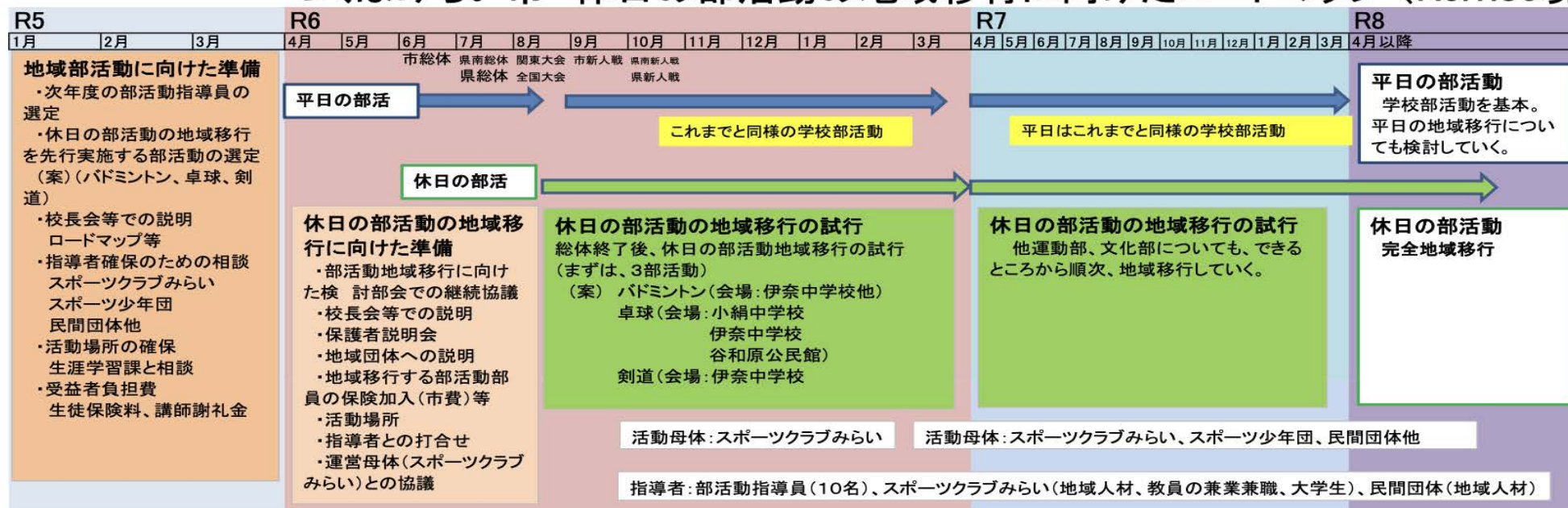


【R5.8.8 部活動指導者研修会「これからの運動部活動のあり方」の様子】

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

つくばみらい市 休日の部活動の地域移行に向けたロードマップ（R6.1.30現在）



○R6休日の部活動の地域移行の先行実施（案）

（1）地域移行の試行部活動（案）

・バドミントン

指導者（スポーツクラブみらい）

会場：伊奈中学校

実施日：土日のいずれか（3時間）

・卓球

指導者（部活動指導員3名、スポーツクラブみらい、地域人材）

会場：小絹中学校、伊奈中学校、谷和原公民館等

実施日：土日いずれか（3時間）

・剣道

指導者（部活動指導員2名、スポーツクラブみらい）

会場：伊奈中学校、総合運動公園研修道場等

実施日：土日いずれか（3時間）

（2）実施時期 令和6年8月から（総体終了後）

（3）受益者負担分について

・R6は、保護者の費用負担はなし（R7も同様に考えている）

（以下は市費負担）

・講師謝礼金 1600円/時間

・生徒スポーツ保険（休日）（800円×3部活動人数分）

（学校の保険は適用外のため）

○今後の検討事項

（1）兼職兼業について

・部活動の指導を希望する教員等の把握

※「公立学校の教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について（手引き）」について（通知）（参考）教改第 963号 令和5年3月31日

（2）指導者の確保について

・地域人材の確保（市内スポーツ少年団含む）

・茨城県の人材バンク

・民間の事業所等の協力

（3）R8年度以降の受益者負担について

・R8年度以降、クラブ活動に係る費用は、受益者負担が原則

・月額負担額の検討（スポーツ保険料含む）

・困窮家庭への支援の検討

（4）運営母体との連絡・情報共有

・総合型地域スポーツクラブ（スポーツクラブみらい）との情報共有

・地域のスポーツ団体との情報共有

・民間の事業所との情報共有

・地域企業との連携

**【茨城県石岡市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	茨城県石岡市
担当課名	教育総務課指導室
電話番号	0299-43-1111

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	72,350人	部活動数	58部活
公立中学校数	5校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	1,629人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

石岡市においては、生徒数の減少により、部活動が成り立たないケースが増えている。具体的には、大会への参加を合同チームとして行ったり、部活動を閉鎖したりするケースが出ている。学校部活動ではなく、地域のクラブチーム等に所属し、活動している生徒も多い。

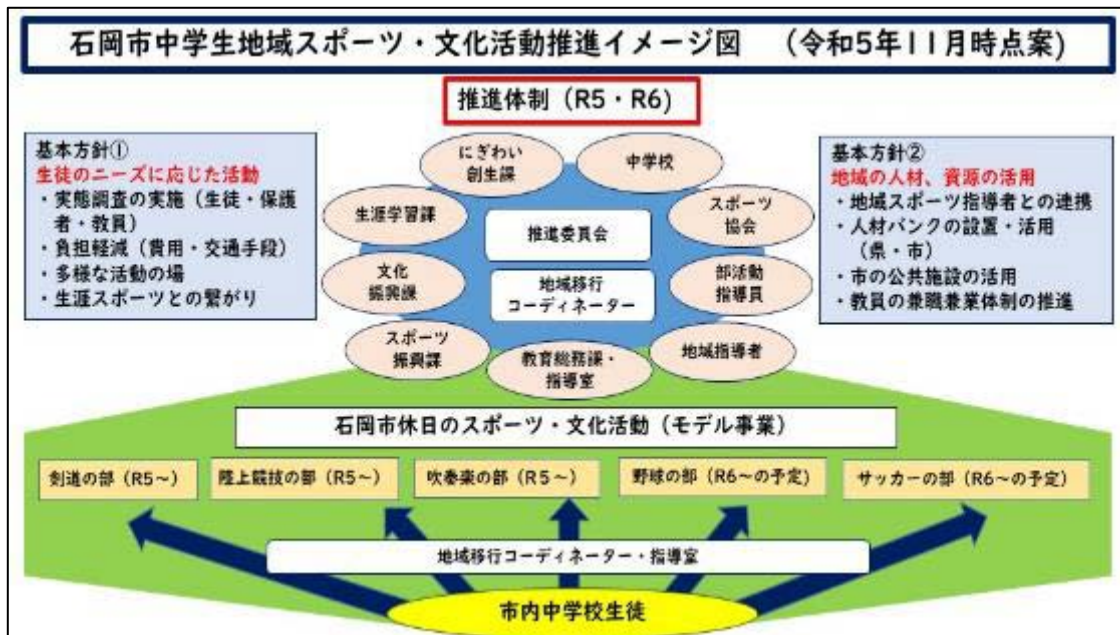
また、教職員にとって、部活動が長時間労働の原因の1つとなっている。これらのことから、今後、学校部活動を継続していくことには課題があり、地域に運動や文化的活動に参加できる場をつくっていく必要があると言える。

種目	令和5年度市新人体育大会に合同で参加したチーム数
野球	1
サッカー	1
バレーボール	1

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- 教育委員会（教育総務課指導室）
- コーディネーター委嘱・連携、関係部署や学校との連絡調整、会計
- 首長部局（秘書広聴課）
- 企業との連携、情報提供（市民への広報）

年間の事業スケジュール

時期	計画事項
8月	関係団体ヒヤリング（指導者の派遣について調整）
9月	生徒、保護者、教員対象アンケート実施 学校管理職を対象とした説明の実施
10月	指導者、部活動顧問との話し合い 「休日のスポーツ活動」チラシ配布、募集開始
11月	検討会議の実施（モデル事業に関する説明及び意見聴取）
12月	「休日のスポーツ活動」開始（剣道・陸上競技）
3月	事業完了報告書・成果報告書等の作成 検討会議の実施（モデル事業に関する報告及び意見聴取） 生徒、保護者、教員対象アンケート実施

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

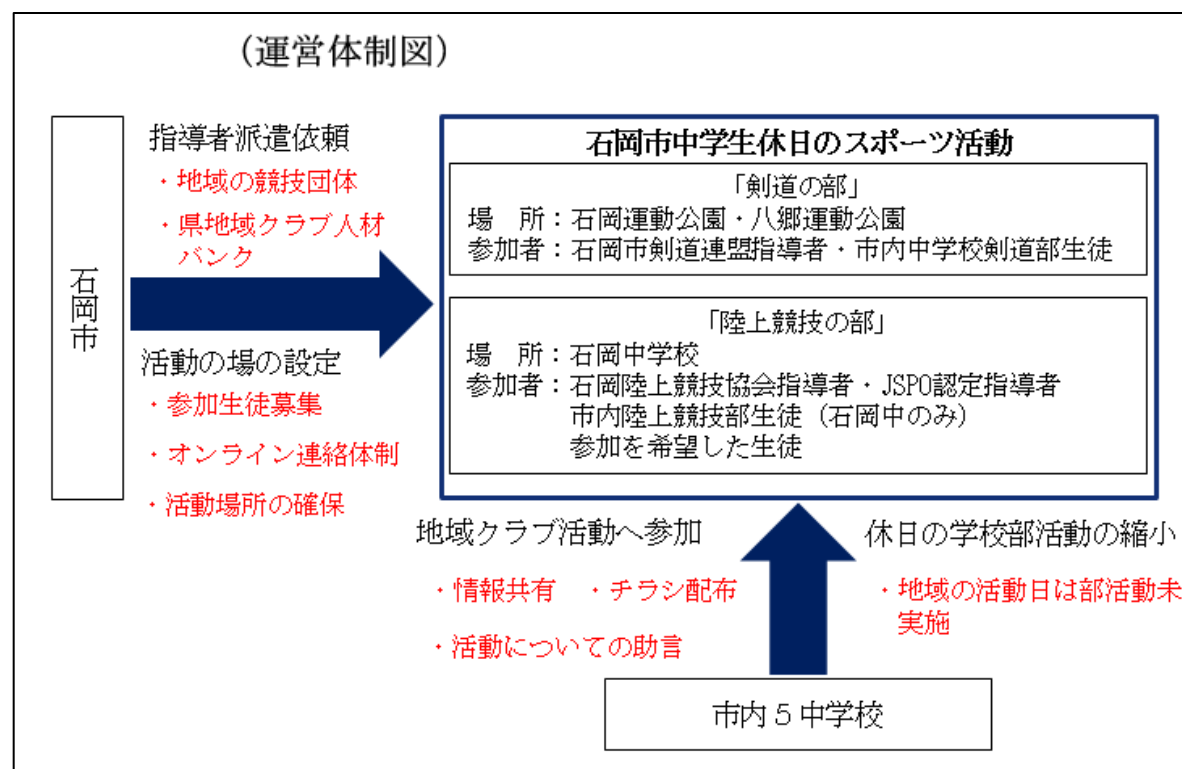
拠点校数	1 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	剣道、陸上競技
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	2 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	石岡中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1 部活
地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営主体名	石岡市教育委員会
運営類型	自治体運営型
1 か月あたりの平均的な活動回数	月 2 回程度
指導者の主な属性	石岡市陸上競技協会
活動場所	石岡中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、スクールバス
1 人あたりの参加会費等（年額）	無料
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・令和5年2月22日（水）に、中学校部活動地域移行の現状や課題等について、地域スポーツ・文化活動指導者（代表者）を対象とした説明会を実施した。
- ・令和5年11月24日（金）に、推進協議会の立ち上げに向けて、中学校体育連盟、スポーツ協会、地域指導者、教育委員会内関係各課関係者の参加による、「石岡市地域部活動推進に係る連絡会」を実施した。
- ・令和6年2月16日（金）に、中学校体育連盟、スポーツ協会、地域指導者、市長部局、教育委員会内関係各課関係者の参加による「第1回石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進協議会」を開催した。モデル事業の成果と課題を共有した上で、それぞれの立場から今後の方向性等について意見交換を行った。

取組の成果

- ・剣道、陸上競技における活動を、各種目6回実施した。ただし、陸上競技は、雨天のため1回中止した。
- ・剣道では、石岡市剣道連盟の協力で、各回4名程度の指導者による丁寧な指導のもと、計22名の生徒が活動に参加した。また、市内に2か所ある運動公園を利用することで、中学校教員の協力を得なくても活動することができた。
- ・陸上競技では、石岡陸上競技協会から1名、県人材バンクから2名のJSPO認定指導者にご協力いただくことができた。中学校を拠点とする方法により、生徒は通常の部活動と変わらない形で参加することができた。拠点校の生徒を中心に、計51名の生徒が、専門性の高い指導を受けることができた。

特に工夫した事項

- ・人材については、地域の競技団体との連携に加え、県の人材バンクを活用したことにより、複数の指導者を確保することができた。
- ・指導者と生徒が互いに連絡を取り合える様、Google Classroomを活用した。活動時間以外の時間に、生徒が指導者に質問したり、考えていることを伝えたりするなど、主体的な取組につながった。
- ・事前に顧問の先生と話し合う機会をつくり、学校における部活動を踏まえた上で、練習の場を設定するようにしたことで、生徒はあまり戸惑うことなく参加することができていた。

今後の課題と対応方針

- ・目標として、各種目5回以上実施することを掲げ、達成することができた。大会が少ない冬季に実施したことで、2種目合計で73人が申込み、延べ250人以上の参加実績に繋がった。
- ・移動手段の問題で、参加することができない生徒も一定数いた。複数箇所で開催することで、負担を減らせるようにしていく必要がある。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

剣道

<実績・成果>

1. 石岡市剣道連盟指導者による協力
 - ・各回 4名程度の指導者
 - ・連盟内で指導者の調整
2. 市内 4 中学から計22人が参加
3. 公共施設の利用
石岡市運動公園／八郷運動公園



2024/2/16

石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進協議会

剣道

<課題・次年度に向けて>

1. 今年以上に生徒のニーズに応じた活動へ
<例>
 - ・石岡地区、八郷地区の2カ所開催
 - ・技能の程度に応じた練習を生徒が選択
2. 石岡市剣道連盟に対して市としてどのように支援していくことができるか



2024/2/16

石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進協議会

陸上競技

<実績・成果>

1. 指導者の確保
 - ・県人材バンクの活用
 - ・JSPO陸上競技コーチ(2名)
 - ・石岡陸上競技協会より(1名)
2. 拠点校型の活動
 - ・石岡中学校の陸上競技部の活動がベース(石岡中会場・51人参加)
 - ・市内他の学校からの参加は1人
3. Google Classroomを活用した相談体制



2024/2/16

石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進協議会

陸上競技

<課題・次年度に向けて>

1. 休日の部活動の完全移行に向けたモデルとして
2. 他校生徒の参加
 - ・様々な運動種目の冬期(オフ期間)におけるトレーニングの場として
3. 公共施設の利用
 - ・石岡市運動公園陸上競技場



2024/2/16

石岡市中学生地域スポーツ・文化活動推進協議会

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



剣道の様子①



剣道の様子②



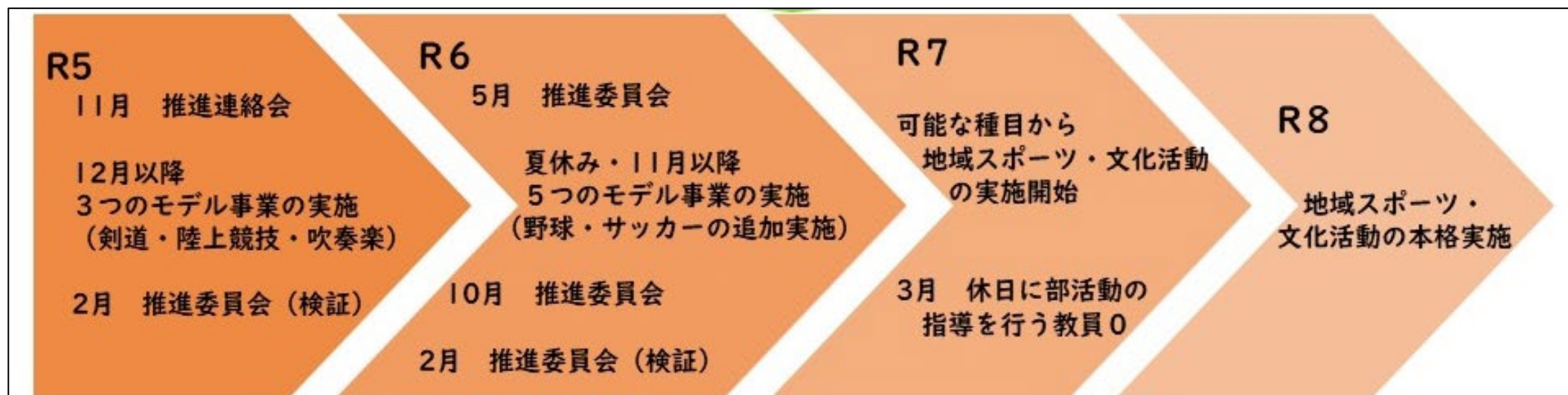
陸上競技の様子①



陸上競技の様子①

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



R5

- 教育委員会を主体としたモデル事業の実施
- モデル事業による成果と課題の検証
- 「石岡市地域スポーツ・文化活動推進協議会」の設置

R6

- 教育委員会を主体としたモデル事業の拡大
- 自走を目指した持続可能な運営方法の検討
- 「石岡市地域スポーツ・文化活動推進協議会」の複数回開催による推進体制の強化

R7

- モデル事業の成果を生かし、可能な種目から地域へ移行
- 休日における学校部活動の縮小
- 大会参加方法の見直し、新たな活躍の場づくり

R8

- 地域スポーツ・文化活動を運営する団体、指導者の支援
- 困窮家庭等への支援等、全ての生徒が自分の希望に応じて参加できる体制づくり

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

